



高校改革 ～ 夢に挑戦する学び ～

再編・整備計画【三次】

2023年（令和5年）1月

長野県教育委員会

目 次

はじめに	1
第 1 章 多様な学びの場の創造（高校配置計画）	2
第 1 高校改革がめざすもの	2
第 2 「実施方針」に示す「新たな学びの推進」と「再編・整備」の方針等	2
第 3 旧通学区ごとの高校配置と将来像	4
1 旧第 3 通学区	4
2 旧第 4 通学区	9
3 旧第 7 通学区	13
4 旧第 11 通学区	18
5 旧第 12 通学区	25
第 4 定時制・通信制課程の配置	28
1 「実施方針」で示した方向	28
2 学びや配置の考え方	28
3 第 1 通学区（北信地区）	29
4 第 2 通学区（東信地区）	31
5 第 3 通学区（南信地区）	33
6 第 4 通学区（中信地区）	35
第 2 章 再編・整備の進め方	37
1 全体の再編手順	37
2 個別の再編実施計画の策定	37
資料	39
1 「都市部存立校」と「中山間地存立校」について	40
2 再編に関する基準等について	41
3 旧 12 通学区別中学校卒業予定者数の予測（2017 年～2030 年）	42
4 2022 年度（令和 4 年度）公立高等学校の学級数及び在籍生徒数	43
5 2022 年度（令和 4 年度）公立高等学校の配置図（全日制課程）	44
6 2022 年度（令和 4 年度）公立高等学校の配置図（定時制課程、通信制課程）	45
7 「再編・整備計画【一次】」の概要	46
8 「再編・整備計画【二次】」の概要	47

はじめに

長野県教育委員会（以下、「県教育委員会」という。）では、高校改革を少子化に対応するための単なる縮小・統廃合計画とするのではなく、長野県の高校教育を新たな学びへと変革するための好機ととらえ、「新たな教育の推進」と「新たな高校づくり」に一体的に取り組むことを基本理念とした「学びの改革 基本構想」（以下、「基本構想」という。）を2017年（平成29年）3月に策定しました。

さらに、「基本構想」をより具体化した「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」（以下、「実施方針」という。）を2018年（平成30年）9月に策定し、「新たな学びの推進」と「再編・整備計画」について、長野県の高校の将来像を具体的に描いていくための方針を示しました。

地域の未来のあり方と不可分な関係にある高校教育の将来像を地域とともに検討するための組織として「実施方針」に基づいて、旧12通学区ごとに「高校の将来像を考える地域の協議会」（以下、「協議会」という。）を地域の協力のもとに設置し、将来を見据えた地域ごとの高校の学びのあり方等について議論を進めていただきました。

こうした中、2019年（令和元年）12月までにご提出いただいた4地区¹の協議会からの意見・提案を踏まえ、2020年（令和2年）3月に「再編・整備計画【一次】（案）」を策定・公表し、県議会等での議論や該当地区で実施した住民説明会等を経て、同年9月に「再編・整備計画【一次】」（以下、「【一次】」という。）を決定、その後、2020年（令和2年）12月までにご提出いただいた3地区²の協議会からの意見・提案を踏まえ、【一次】の旧第8通学区の未確定分とともに、「再編・整備計画【二次】（案）」を策定・公表し、【一次】と同じ経緯を経て、2021年（令和3年）9月に「再編・整備計画【二次】」（以下、「【二次】」という。）を決定しました。

この「再編・整備計画【三次】」（以下、【三次】という。）は、協議会（旧第11通学区のみ「懇話会」）からいただいた意見・提案・要望を踏まえ、【一次】及び【二次】に含まれないすべての旧通学区の全日制高校の再編・整備計画及び全県の定時制課程・通信制課程の配置計画について具体的な対象校名を示すものであり、2022年（令和4年）5月に「再編・整備計画【三次】（案）」として公表したものを、県議会等での議論や住民説明会等におけるご意見などを踏まえて修正し、決定するものです。

今後は、【一次】【二次】と同様、【三次】においても、統合新校ごとに「新校再編実施計画懇話会」を開催し、地域とともに検討を進め、個別の再編実施計画を策定して、具体的な再編・整備を進めてまいります。

また、2018年（平成30年）に「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」を策定してから今日まで、高校教育を取り巻く状況が大きく変化しています。県教育委員会では、高校改革の今後のあり方や県立高校の更なる魅力化等について有識者等からご意見をお聴きする懇談の場を設け、その結果を統合新校の学校像及び既存校の学校改革に活かしてまいります。

次代を担う子どもたちのため、これまで以上に地域や学校関係者等との連携を図りつつ、県教育委員会が主体となって、すべての生徒が自らの夢に挑戦することのできる「新たな学び」と「新たな高校づくり」を推進します。

2023年（令和5年）1月
長野県教育委員会

1 旧第1（岳北）・第6（佐久）・第8（上伊那）・第9（南信州）通学区の4地区

2 旧第2（中野・須坂）・第5（上田）・第10（木曽）通学区の3地区

第1章 多様な学びの場の創造（高校配置計画）

第1 高校改革がめざすもの

「学びの県」を標榜する長野県で私たちがめざすのは、次代を担う子どもたちのための「学びの改革」であり、それは、再編の対象校であるかどうかに関わらず、すべての県立高校で推し進めていくものである。

「実施方針」では「新たな学びの推進」と「再編・整備計画」を改革の両輪に据えており、既にすべての県立高校が「学びの改革」に係る取組を始めている。

また、各地区の協議会からは、地域の高校における将来を見据えた学びのあり方についても建設的な議論を経て多くの意見・提案をいただいた。

高校改革の取組が遅れることは、子どもたちの学びの環境の質的な低下を手をこまねいて看過することになりかねず、これからの社会を生きる子どもたちのため、動きを加速させる必要がある。

社会の激変と少子化の中でも将来にわたって高校教育の学びの質を保障していくことは、次世代に対する私たち世代の責任である。

第2 「実施方針」に示す「新たな学びの推進」と「再編・整備」の方針等

2018年（平成30年）9月の「実施方針」で示した「新たな学びの推進」と「再編・整備」に係る方針と推進項目を整理し、以下に掲げる。

1 すべての高校が、これからの時代に必要とされる力を生徒に育む新たな学びに転換します。

- (1) 「探究的な学び」の推進
- (2) 各校の学びを体系的に示す「3つの方針」の策定と運用
 - 「3つの方針」をすべての県立高校で策定
 - 「生徒育成方針」「教育課程編成・実施方針」「生徒募集方針」
 - 「生徒育成方針」の実効性を検証するフィードバックシステムの構築
- (3) 入学者選抜制度の改革

2 夢に挑戦できる多様な学びの場、学びの仕組みを整備充実します。

- (1) 多様な学びの場の整備充実
 - 総合学科高校、総合技術高校、多部制・単位制高校の充実・拡大
 - 通信制の改革
 - モデル校方式（県立高校「未来の学校」構築事業）による新たな学びの場の創造
- (2) 多様な学びの仕組みの整備充実
 - ICTを活用した教育の推進
 - 高校間連携・高大連携の推進
 - 特別支援教育の充実
 - デュアルシステムの拡大等

3 新たな学びにふさわしい環境を整備します。

- (1) 学習環境・生活環境の整備
 - 再編に係る施設・設備の整備
 - 既存校の計画的な整備（空調設備・洋式トイレ等）
- (2) ICT環境の整備と充実
- (3) 新たな学び推進のための人的配置
 - 地域連携等の中核を担う教職員の位置づけ
 - ICT支援員等の外部人材・専門人材の活用

4 さらなる少子化の進行に的確に対応します。

(1) 都市部

- 小規模校分立を回避、教育効果・投資効果を最大化
- 新しい時代にふさわしい新しい学校を再編・整備

(2) 中山間地

- 魅力的な学びの場の創造に向けて、地域と協力して最大限の努力を行う

5 多様な学びの場を全県に適切に配置します。

(1) 配置の基本的な考え方

- 地域全体及び県全体の高校の将来像を総合的に検討

(2) 校種ごとの配置の考え方

- 「都市部存立校」と「中山間地存立校」の区分を設け、区分ごとの再編基準を設定
(区分及び再編基準は巻末に資料として掲載)
- 普通高校、定時制高校 旧 12 通学区を基本に配置
- 専門高校 旧 12 通学区を基本に、より広域にも配置
- 総合学科高校 4 通学区を基本に配置
- 多部制・単位制高校 4 通学区を基本に配置
- 通信制高校 東北信・中南信への配置を基本に、サテライト校の配置等も含めて検討

(3) モデル校の配置の考え方

- モデル校(県立高校「未来の学校」実践校)の特性と全県のバランスを考慮して配置

(4) 広域の検討が必要な場合の配置の考え方

- 地域の意見も聞きながら県教育委員会が広域的・多角的に判断

(5) 再編にともなう校地・校舎等の後利用の考え方

- 地域の意見も聞きながら、有効活用できるように検討

6 地域での検討を踏まえて「再編・整備計画」を確定し、再編を実施しない既存校も含めて計画的に整備を進めます。

(1) 地域での検討

- 旧 12 通学区ごとに「高校の将来像を考える地域の協議会」を設置

(2) 「再編・整備計画」の確定

- 「協議会」の意見・提案を踏まえ、全県的視野に立って確定

なお、「実施方針」において「新たな学びの推進」のために充実・拡大を図るとしている総合学科高校³、総合技術高校⁴、多部制・単位制高校⁵等については、各校種の特色や魅力が明瞭となる呼称を検討していく。

3 総合学科を設置する高校。総合学科とは普通科や専門学科とは異なる「第3の学科」として、平成6年度から設置できるようになった学科。必修科目以外は、履修・修得の単位数に制限がなく、普通科目や職業教育に関する専門科目などから柔軟な科目選択が可能で、生徒が進路を探究する過程で、重点的に学びたい普通科目や関連した専門科目を選択して個別のカリキュラムをつくることのできる。現在、中野立志館高校、丸子修学館高校、佐久平総合技術高校臼田キャンパス、蘇南高校、塩尻志学館高校の5校に総合学科を設置している。

4 1校の中に農業、工業、商業など複数の専門学科を置く高校で、学科間の連携や学科の枠を超えた学習を可能とする教育課程の編成により、各学科の専門性の深化に加え、幅広い職業観や柔軟性を養う教育を行うことができる利点がある。第1期高等学校再編計画で、須坂創成高校、佐久平総合技術高校、飯田O I D E長姫高校の3校を設置している。

5 ひとつの高校の中で午前、午後、夜間など、授業を受けられる時間帯を選択できるとともに、基本的には学年の枠を設けず、個別のカリキュラムにより選択科目を履修・修得し、規定の単位数に達すれば3年以上の修業年限で卒業できる。そのため、個々のライフスタイルや学習ペースに合わせた教育を受けられる高校と言える。現在、東御清翔高校、箕輪進修高校、松本筑摩高校の3校を設置している。

第3 旧通学区ごとの高校配置と将来像

急速に進行する少子化の中でも、すべての高校が学びの質を維持し、各校の特色を活かした「新たな社会を創造する力」の育成を展開していく必要がある。そのためには、「新たな学びの場」の創造としての県立高校の再編・整備を進める必要がある。

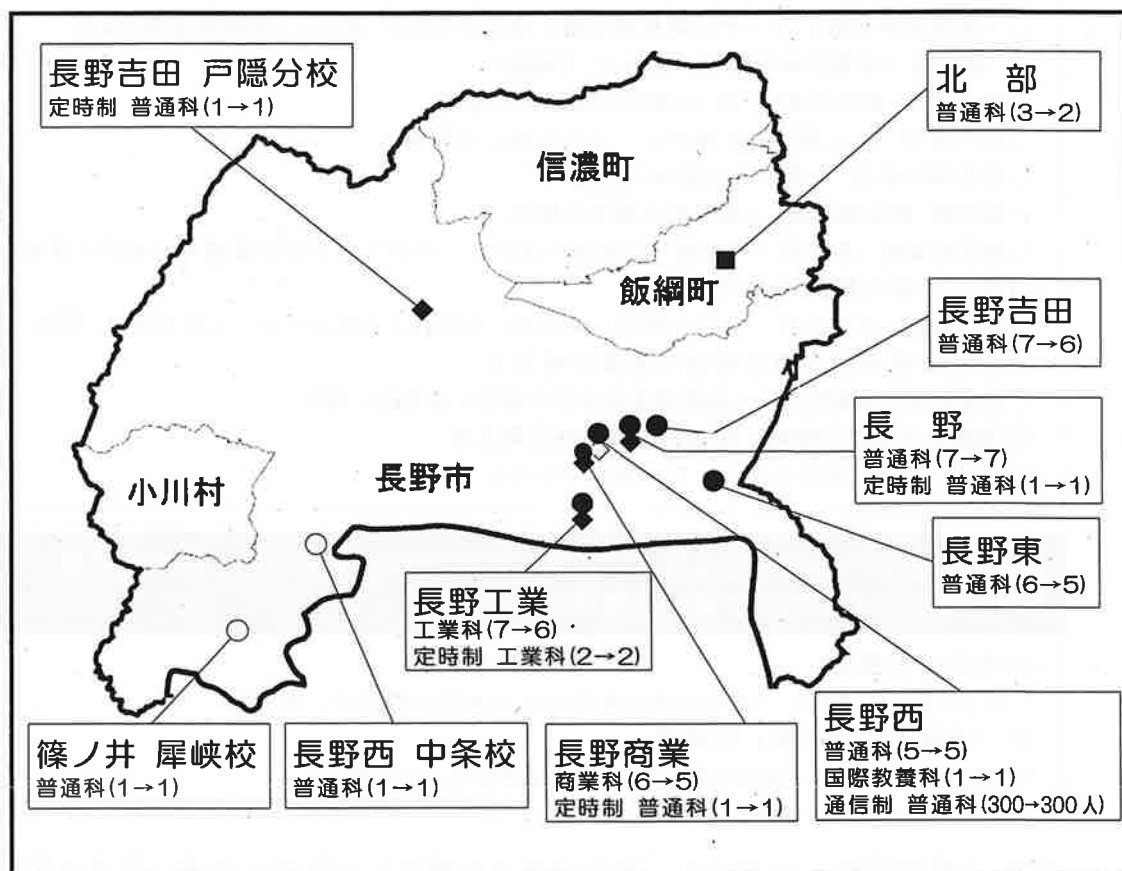
以下のとおり、旧通学区ごとの再編・整備計画を定める。

1 旧第3通学区

(1) 「実施方針」策定時の状況

ア 「実施方針」において基準年としている 2017 年度の高校配置

カッコ内は募集学級数（2017 年度→2022 年度）



- ・全日制課程
 - 都市部存立普通校 4校：長野吉田高校、長野高校、長野西高校、長野東高校
 - 都市部存立専門校 2校：長野商業高校、長野工業高校
 - 中山間地存立校 1校：北部高校
 - 地域キャンパス 2校：長野西高校中条校、篠ノ井高校犀峽校
- ・定時制課程
 - ◆夜間定時制 3校：長野高校、長野商業高校、長野工業高校
 - ◇昼間定時制 1校：長野吉田高校戸隠分校
- ・通信制課程
 - ◇ 1校：長野西高校

イ 「実施方針」で示した再編計画の方向

- ・都市部存立普通校、都市部存立専門校、中山間地存立校及び地域キャンパスという多様な高校が存立する中で、地域の中学生の期待に応える学びの場を整備していく必要がある。

- ・この地区の今後の少子化の進行を考えると、再編の実施を前提に地域の高校の将来像を考えていく必要がある。
- ・隣接通学区との間の流出入が多いことから、隣接通学区に与える影響を考慮して検討を進める必要がある。
- ・これらの観点を踏まえると、長野市に適正数を考慮しながら規模の大きさを活かした都市部存立普通校を配置するとともに、学びの場の保障の観点も踏まえながら中山間地存立校及び地域キャンパスを配置していくことが考えられる。
- ・専門高校2校については、全県の拠点としての役割を踏まえ、一定規模の確保が必要であると考えられる。

(2) 地域での検討と地域からの意見・提案

ア 地域の「協議会」の概要

- ① 名 称 旧第3通学区高校の将来像を考える地域の協議会
- ② 座 長 永松 裕希 信州大学教育学部教授
- ③ 委 員 20 名
- ④ 活動期間 2019 年（令和元年）6 月～2021 年（令和3年）2 月
- ⑤ 意見提出 2021 年（令和3年）4 月 13 日

イ「協議会」からの意見・提案（抜粋）

「旧第3通学区の高校の将来像について 意見・提案書」より

① 学びのあり方に関わる意見等

第三章 子どもたちの夢を実現する学び

2 「旧第3通学区高校の将来像を考える地域の協議会」での協議のポイント

- (1) 子どもたちが主体的に自らの未来を切り拓く力を身に付けられる学校
 - ・学校は、様々な分野の人々と協働し、学校内外で生徒が主体的な活動を実践していく中から、諸課題解決を粘り強く探究する力や資質を養う場となってほしいと願います。

(2) 多様な生徒のための多様な学びの必要性和選択肢の充実

- ・専門校は、多様性を育む学習環境を保つためにも一定規模の維持を図りながら発展させていくことを期待します。また、北信地域の総合技術高校との連携を図りながら、さらなる発展をし続けてほしいと考えます。
- ・多部制・単位制高校は、生徒自身が生活や学習スタイルに合わせて学ぶことができ、学習指導や相談・支援体制の充実、人間関係やコミュニケーション能力育成等を外部機関等と連携しながら進めることができる学びの場として期待します。

第四章 地域の高校の将来像

それぞれ自分の特徴や希望にあった高校が、北信全域を見渡すと用意されている選択肢の多い学校環境をつくってほしいと願います。既存の都市部存立普通校や都市部存立専門校、中山間地存立校も、多様な子どもたちに対応した多様な学

びができる学校づくりに努めていただきたいと思います。

1 都市部存立普通校の学び

柔軟な教育課程の編成や外部人材・専門的な人材を積極的に活用しながら、問題解決型学習や探究的な学びへの転換を図り、困難に立ち向かい、自らの道を自ら切り拓くことができる子どもたちの育成を求めます。そして、地域の資源を活かした創造的なプロジェクトを構築して、地域を活性化させるような人材の育成を期待します。今後、各校で問題解決型学習を積極的に導入するとともに、それぞれが特色を持った普通科として発展することを期待します。

2 都市部存立専門校の学び

両校（長野商業・長野工業）は、スケールメリットを活かし、地域での異世代交流や大学との連携を強化しながら地域の課題を発見し探究する姿勢を身につけた生徒の育成を目指して欲しいと願います。また、地元企業等との連携を強化したデュアルシステムによる就業体験の実践等を強化することによって、より専門性の高い長野県の専門教育の拠点となる学びの場に発展することを求めます。

3 中山間地存立校の学び

各校ともに中山間地における学びの拠点として、地域の特色を活かし探究的な活動に取り組むなど、少人数であることを活かした教育が実践されています。生徒の中には、少人数での配慮の行き届いた学びを求めて通学している生徒もいます。こうした子どもたちの要望に応え、学びやすい環境を整備していくことも公教育には求められています。

4 定時制・通信制の学び

多様な背景を持つ生徒が学ぶ場、あるいは学び直しができる場としてその重要性は高まっています。また、遠方から通学する生徒や自分に合ったスタイルでの学習を模索する生徒、海外の学校を卒業し日本での自立した生活を目指す生徒、アルバイトを経験しながら自分のライフスタイルに合わせた学び方を模索する生徒など、多様な生徒が在籍しています。

通信制課程も多様な背景を持つ生徒の学ぶ場として注目され、在籍生徒が増加しています。こうした多様な生徒の要望に応える学びの場として、北信地域には未設置である午前部・午後部・夜間部を備えた多部制・単位制高校の設置を要望します。

加えて、遠隔授業や EdTech の活用、希望する日に生徒が登校して地域と連携して取り組む探究的な活動、大学等での単位や各種資格の取得、コンクールの成果等を卒業要件として認定する学修奨励等、生徒の個性に合わせた柔軟な学びのシステムを可能とする通信制課程の併設を要望します。

それにより、定時制、通信制いずれかに所属した生徒が、自らのライフスタイルや進路希望に合わせて主体的に選択し、じっくり4年間かけて学んだり、3年未満で卒業に必要な単位を修得してギャップイヤーを有効に活用したりするなど、よりフレキシブルな学びのスタイルが可能となることを期待します。

② 環境整備に関わる意見等

第Ⅳ章 地域の高校の将来像

5 教育条件整備の充実

・既存の学びの発展や多部制・単位制高校の設置等、新たな学びの場の構築で予想される学校や教職員への負担について、「官民協力して、地域で支えていくべき」という意見が複数ありました。教職員の増員や必要な研修の機会保障、さらに老朽化した施設や設備の改善など、ハード、ソフト両面からの財政的支援は欠かせません。長野県の未来を担う子どもたちのために、教育予算の充実が高校改革を強力に後押しすることを旧第3通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」として願っています。

③ 高校配置に関わる意見等

第Ⅱ章 旧第3通学区中学卒業者の進学状況と周辺通学区との関係

2 旧第3通学区と周辺通学区との高校進学に伴う流出入

(3) 令和2年度 高校1年生の旧第3通学区と周辺通学区との流出入(全日制課程)

・旧第3通学区と周辺通学区間との公立高校進学をめぐる流出入は複雑に関係しており、旧第3通学区の学びのあり方や高校配置は、隣接通学区にも大きな影響を与える状況となっています。

第Ⅲ章 子どもたちの夢を実現する学び

2 「旧第3通学区高校の将来像を考える地域の協議会」での協議のポイント

(2) 多様な生徒のための多様な学びの必要性和選択肢の充実

・多部制・単位制高校については、多様な生徒に対して多様な学びを求める観点から、産業界、義務教育関係者、市町村教育委員会など多方面から北信地域への設置要望がありました。北信地域の高校生の交通の便等も配慮しながら、できるだけ速やかに多部制・単位制高校を設置することを望みます。

第Ⅳ章 地域の高校の将来像

1 都市部存立普通校の学び

・学級数を減じて対応していける段階を越えており、可能な限り教員が専門科目の指導ができ、規模を活かした学習活動やクラブ活動、生徒会活動等を行える学びの場を維持するために、旧第3通学区においても再編統合はやむを得ないとの意見が多く出されました。

3 中山間地存立校の学び

・再編基準に沿った統廃合を実施することもやむを得ない状況にありますが、地域の中学生の希望も十分考慮した上で、その学校ならではの特色ある学びを追究する地域の拠点として可能な限り維持できるように要望します。

4 定時制・通信制の学び

・北信地域には未設置である午前部・午後部・夜間部を備えた多部制・単位制高校の設置を要望します。

(3) 再編・整備方針

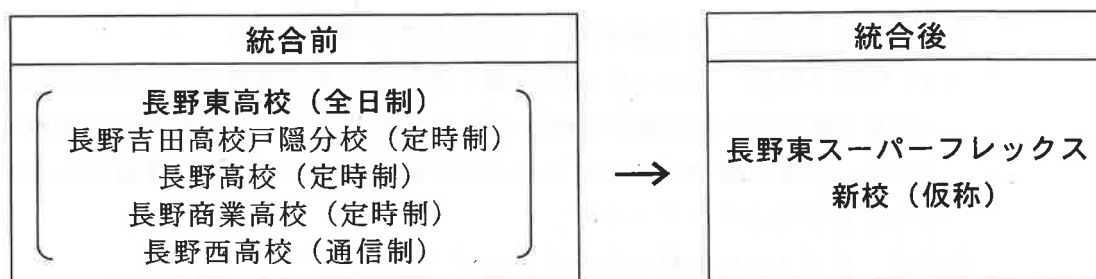
ア 今後の学びのあり方

- 地域における普通教育と専門教育の充実を図るとともに、各校の特色を活かした地域の中学生の期待に応える多様な学びの実現をめざす。
- 各校で「3つの方針」に基づく新たな学びへの転換を推進する。
- 都市部の高校においては、規模を活かした学校づくりをとおして、生徒たちが切磋琢磨しながら「新たな社会を創造する力」を育むことのできる教育活動を創造していくことが期待される。

イ 教育環境の整備

- 既に着手している事項も含め、引き続き教育環境の整備を進める。

ウ これから実施する再編計画



長野東スーパーフレックス新校（仮称）の学校像としては例えば次のような姿が考えられる

【課程】 多部制・単位制（定時制）と通信制を併置

【特長】 ・多様な生活・学習スタイルにあわせて、生徒自らがフレキシブルに学びをマネジメントする新しいタイプの学校

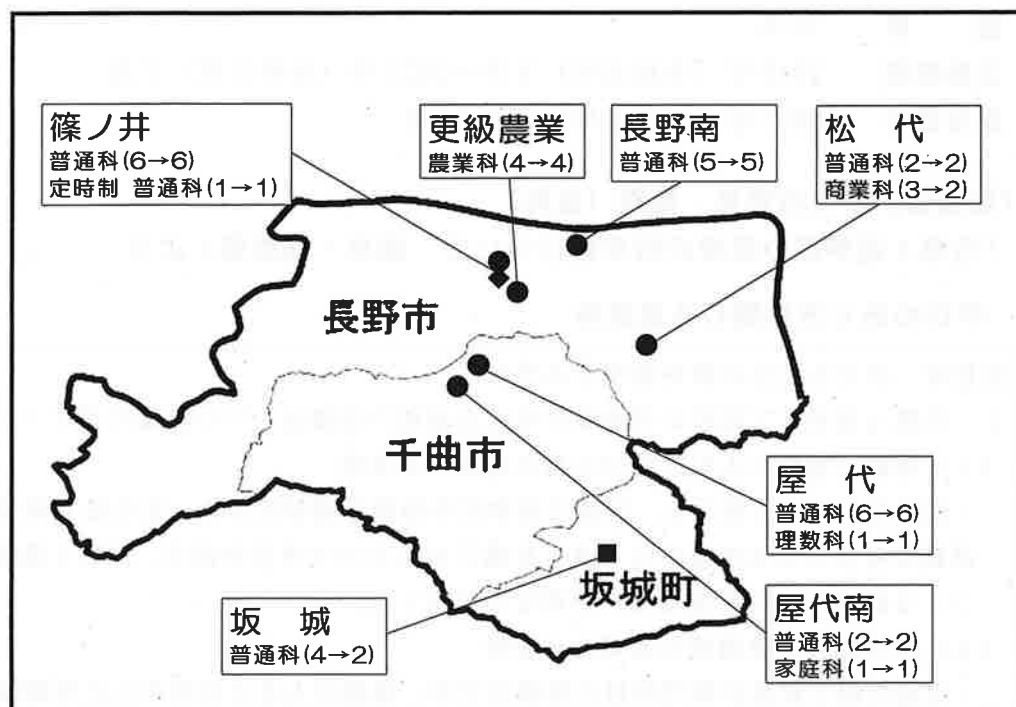
- ・学校で開講する全ての授業が選択可能。また、多部制の午前部・午後部・夜間部の各部の間及び定時制と通信制の間で転籍が可能
- ・通信制は、週1日から5日まで自由に登校が可能
- ・EdTech（テクノロジーを用いた学びの支援）を活用した、生徒一人ひとりの学習状況に合った個別最適な学びを実践
- ・柔軟な学びの仕組みを最大限に活かし、在学中に海外留学、インターンシップ、スポーツ芸術文化活動、ボランティアなど学校内外の活動のための十分な時間の確保が可能
- ・学校外の活動や資格取得などを単位認定
- ・地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用

2 旧第4通学区

(1) 「実施方針」策定時の高校配置

ア「実施方針」において基準年としている2017年度の高校配置

カッコ内は募集学級数（2017年度→2022年度）



- ・全日制課程 ●都市部存立普通校4校：長野南高校、篠ノ井高校、屋代高校、屋代南高校
- 都市部存立専門校2校：更級農業高校、松代高校
- 中山間地存立校 1校：坂城高校
- ・定時制課程 ◆夜間定時制 1校：篠ノ井高校

イ「実施方針」で示した再編計画の方向

- ・隣接通学区への進学希望にも応えつつ、地域の子どもを地域で育てる観点も大切にしながら、地域の中学生の期待に応える学びの場を整備していく必要がある。
 - ・この地区の今後の少子化の進行を考えると、再編の実施を前提に地域の高校の将来像を考えていく必要がある。
 - ・「第1期長野県高等学校再編計画」検討時も専門学科の再編統合が懸案となっていたが、専門学科の小規模化が想定される中で、専門教育の活力を維持充実させていく必要がある。
 - ・これらの観点を踏まえると、長野市南部と千曲市に適正数を考慮しながら規模の大きさを活かした都市部存立普通校を配置するとともに、学びの場の保障の観点も踏まえながら中山間地存立校を配置していくことが考えられる。
- また、総合技術高校の設置等により専門教育の維持充実を検討していくことが考えられる。

(2) 地域での検討と地域からの意見・提案

ア 地域の「協議会」の概要

- ① 名 称 旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」
- ② 会 長 藤本 光世 円福寺愛育園園長
- ③ 委 員 22名
- ④ 活動期間 2019年（令和元年）8月～2021年（令和3年）7月
- ⑤ 意見提出 2021年（令和3年）8月24日

イ 「協議会」からの意見・提案（抜粋）

「旧第4通学区の高校の将来像について 意見・提案書」より

① 学びのあり方に関わる意見等

第三章 子どもたちの夢を実現する学び

2 旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」での協議のポイント

（1）再編を視野に入れた学びの場の整備の必要性

・交通の利便性を活かし、旧第3通学区や旧第5通学区から、また私立高校との併願を考えている生徒からも魅力を感じることのできる学校を、旧第4通学区につくる計画の検討を求める声が寄せられました。

（2）都市部存立普通校の改革の必要性

・可能な限り教員が専門科目の指導ができ、規模の大きさを活かした学習活動や部活動、生徒会活動等を行える学びの場を維持するために普通科の再編が必要との意見が多く寄せられました。

（3）魅力ある学校づくりと総合技術高校の設置による専門教育の維持充実

・旧第4通学区全体の中学卒業者数の減少に合わせ、専門科の小規模化が想定される中で、専門教育の活力を維持充実させていく必要がある点で一致しました。
・現在設置されている学科の他に、これからの時代や地域のニーズに応えることのできる新たな学科の設置の必要性についての意見もあり、例えば、工業・福祉・看護・情報の学びなどを結びつけた、この地域にふさわしい総合技術高校のあり方を十分検討した上で、旧第4通学区への設置を要望します。

（4）中山間地存立校の学び

・旧第4通学区の中山間地校（坂城高校）は、少人数の学習環境の中でグループ学習を取り入れ、若い大学生がメンターとなって協働的学習並びに地域企業等との連携を進めるとともに、一人一台端末を用意してICTを駆使し、個別最適化された学びの実践をいち早く導入しています。こうした特色ある学びが他の学校にも広がっていくことを期待します。

（5）多様な生徒のための多様な学びの必要性和多部制・単位制高校の設置

・多部制・単位制高校は、授業を受けられる時間帯を生徒が自ら選択でき、生徒自身の生活や学習スタイルに合わせて学ぶことができます。また、生徒の幅広いニーズに応えるため、学習指導や相談・支援体制の充実、人間関係やコミュニケーション能力育成等を外部機関等と連携しながら進めることができる学びの場として速やかに多部制・単位制高校の設置を望みます。

② 環境整備に関わる意見等

第Ⅲ章 子どもたちの夢を実現する学び

2 旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」での協議のポイント

(8) 教育条件整備についての要望

- ・旧第4通学区の協議会では、地域の未来を創造する子どもたちにとって魅力ある学びの場を整備するために、各校の特色を担う専門性の高い教職員の確保や研修の機会保障、また施設や設備の充実などを願う声が上がりました。高校改革において子どもたちを取り巻く教育条件整備が確実に進展していくことを期待します。

③ 高校配置に関わる意見等

第Ⅱ章 旧第4通学区中学校卒業生の進学状況と周辺通学区との関係

2 旧第4通学区と周辺通学区との高校進学に伴う流出入

(4) 令和2年度 旧第4通学区出身高校1年生の隣接通学区への入学者数(全日制)

- ・長野市と上田市の間にあり交通の便に恵まれた旧第4通学区に、適正な学校規模を備えた魅力ある学びの場を、周辺通学区の高校配置も見ながら検討していく必要があるとの意見が多数を占めました。

第Ⅲ章 子どもたちの夢を実現する学び

2 旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」での協議のポイント

(1) 再編を視野に入れた学びの場の整備の必要性

- ・平均学級数の減少予測から、旧第4通学区の再編統合はやむを得ないとの認識で一致しました。

(2) 都市部存立普通校の改革の必要性

- ・可能な限り教員が専門科目の指導ができ、規模の大きさを活かした学習活動や部活動、生徒会活動等を行える学びの場を維持するために普通科の再編が必要との意見が多く寄せられました。

(3) 魅力ある学校づくりと総合技術高校の設置による専門教育の維持充実

- ・旧第3通学区から旧第5通学区にかけての地域には総合技術高校はなく、協議会では旧第4通学区に魅力ある学びの場として、一定規模の総合技術高校設置を要望していくことで一致しました。

(4) 中山間地存立校の学び

- ・「再編・整備計画」の策定にあたっては、地域の実情も考慮して、中山間地の特色ある学びの拠点として維持していくことを要望します。

(5) 多様な生徒のための多様な学びの必要性和多部制・単位制高校の設置

- ・旧第4通学区の協議会でも多部制・単位制高校設置の要望は強く、北信地域全体の高校生の交通の利便性等にも配慮しながら、速やかに多部制・単位制高校を設置することを望みます。設置場所については、交通の便の良い旧第4通学区への設置を強く求める意見もありました。

(3) 再編・整備方針

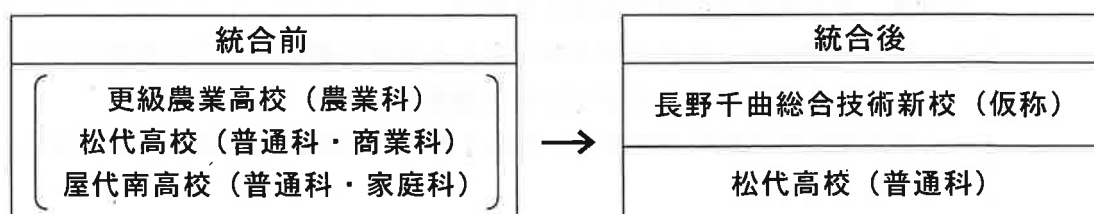
ア 今後の学びのあり方

- 隣接通学区への進学希望も考慮しつつ、地域の子どもを地域で育てる観点を大切にしながら、普通教育と専門教育の充実を図るとともに、各校の特色を活かし、地域の中学生の多様な期待に応える学びの実現をめざす。
- 各校で「3つの方針」に基づく新たな学びへの転換を推進する。
- 都市部の高校においては、規模を活かした学校づくりをとおして、生徒たちが切磋琢磨しながら「新たな社会を創造する力」を育むことのできる教育活動を創造していくことが期待される。
- 中山間地の高校においては、地域と連携し、地域資源を活かした「探究的な学び」を充実させることにより、「新たな社会を創造する力」を育む教育活動を展開していくことが期待される。

イ 教育環境の整備

- 既に着手している事項も含め、引き続き教育環境の整備を進める。

ウ これから実施する再編計画



長野千曲総合技術新校（仮称）の学校像としては例えば次のような姿が考えられる

【学 科】 農業科・商業科・家庭科・新学科（DX 等に対応するデジタル系学科）

【特 長】 ・学科の基礎的な専門性を身に付けるとともに、学科を横断した科目を学ぶことなどにより、これからの時代に必要な汎用的・多面的職業能力を育成

・商業科の生徒がファッションデザインを学んだり、家庭科の生徒が食品製造を学んでフードデザインに活かすなど、個々の興味関心や希望する進路などにより、他学科の科目の履修が可能

・デジタル系新学科を結節点として、農業・商業・家庭の学びを融合させ、地域社会や地域産業に新たな価値を生み出すイノベーターを育成

・地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用

長野千曲総合技術新校（仮称）は、活用する校地・校舎や設置学科などについて地域に様々な意見があることから、今後設置する「新校再編実施計画懇話会」の意見交換を踏まえ、魅力ある学校像を地域とともに創り上げていく。

松代高校（普通科）の学校像としては例えば次のような姿が考えられる

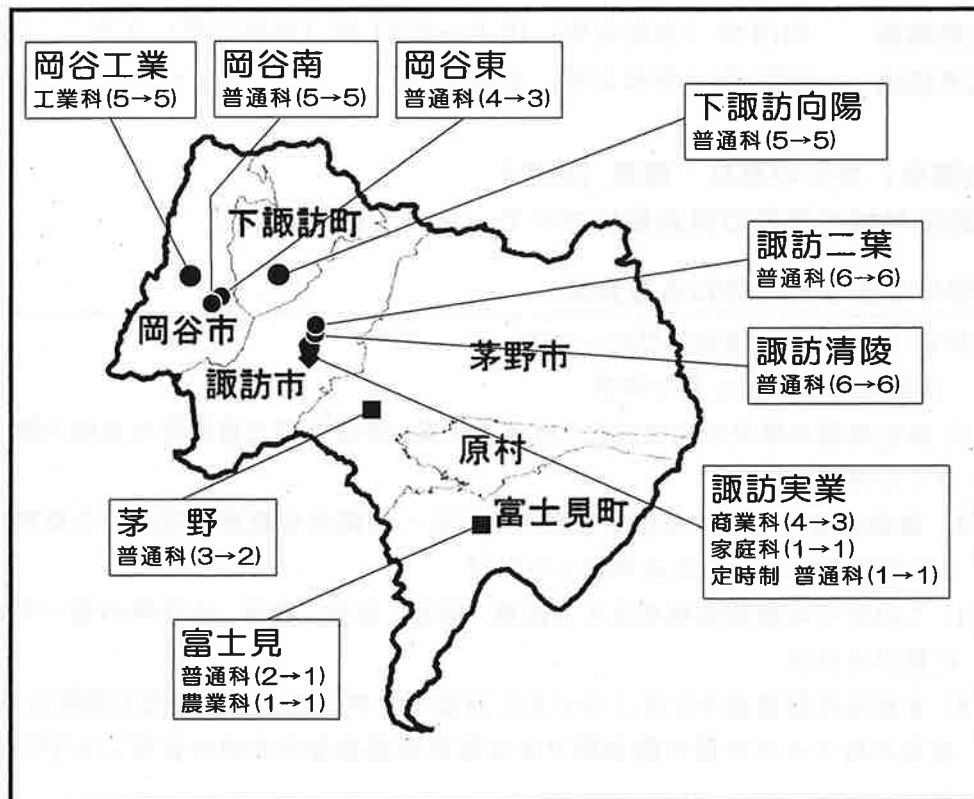
- ・新たなコース制などによる魅力づくりを進め、自己の未来を創造的に切り拓く学びを構築
- ・地域の伝統や文化、戦争遺構等を活用した特色ある学びの推進
- ・地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室等の活用により、実社会を学びのフィールドにして、地域社会の有意な構成者を育成する高校

3 旧第7通学区

(1) 「実施方針」策定時の高校配置

ア「実施方針」において基準年としている2017年度の高校配置

カッコ内は募集学級数（2017年度→2022年度）



- ・全日制課程
 - 都市部存立普通校 5校：諏訪清陵高校、諏訪二葉高校、下諏訪向陽高校、岡谷東高校、岡谷南高校
 - 都市部存立専門校 2校：諏訪実業高校、岡谷工業高校
 - 中山間地存立校 2校：富士見高校、茅野高校
- ・定時制課程
 - ◆夜間定時制 1校：諏訪実業高校

イ「実施方針」で示した再編計画の方向

- ・隣接県への流出が多い中で、地域の子どもを地域で育てる観点を大切にしながら、地域の中学生の期待に応える学びの場を整備していく必要がある。
- ・この地区の今後の少子化の進行を考えると、再編の実施を前提に地域の高校の将来像を考えていく必要がある。

- ・専門学科の小規模化が想定される中で、専門教育の活力を維持充実していく必要がある。
- ・これらの観点を踏まえると、都市部に適正数を考慮しながら規模の大きさを活かした都市部存立校を配置するとともに、学びの場の保障の観点も踏まえながら中山間地存立校を配置していくことが考えられる。
- ・その際、総合技術高校の設置等により専門教育の維持充実を検討していくことが考えられる。

(2) 地域での検討と地域からの意見・提案

ア 地域の「協議会」の概要

- ① 名 称 諏訪地域の高校の将来像を考える協議会
- ② 座 長 金子 ゆかり 諏訪市長
- ③ 委 員 24 名
- ④ 活動期間 2019 年（令和元年）10 月～2021 年（令和 3 年）2 月
- ⑤ 意見提出 2021 年（令和 3 年）3 月 22 日

イ 「協議会」からの意見・提案（抜粋）

「諏訪地域の高校の将来像について 意見・提案」より

① 学びのあり方に関わる意見等

第Ⅳ章 諏訪地域に望む学びについて

2 諏訪地域の高校に望む学び

- (2) 諏訪地域の歴史や伝統文化、地域の産業、豊富な観光資源等の地域の魅力についての学び
- (3) 諏訪地域から日本全国や世界に羽ばたく国際的な感覚や先進的な資質の育成を目指す各分野にわたる卓越した学び
- (4) これからの諏訪地域を支える医療、福祉、行政、教育、法律等の担い手の育成に繋がる学び
- (5) 多様な学習経過や生活スタイルに対応でき学び直し等が可能な柔軟な学びや、生徒が持てる力を最大限発揮できる特別支援教育の充実を目指した学びの仕組み
- (6) 「東洋のスイス」と謳われた精密機器産業や、地理的条件や気候条件を活かした農業分野、寒冷な気候を活かした寒天づくり等地域の伝統産業の担い手を育成する学び
- (7) 県内でも屈指の多様な観光資源を有する地域の観光の担い手を育成する学び
- (9) 幼保小中高大それぞれの発達段階に応じた学びの連続性や連携が重視された学び
- (10) 新たな時代の地域創生のモデルとして地域の魅力化につながる循環型の学びの仕組み

② 環境整備に関わる意見等

第Ⅳ章 諏訪地域に望む学びについて

2 諏訪地域の高校に望む学び

- (1) 諏訪地域の子どもたちが地域の中で自分の希望がかなえられる多様なニーズに対応した学びの場
- (8) 県内外の他地区への進学者の流出抑制や県内外の他地域からの移住につながる魅力ある教育環境の整備

③ 高校配置に関わる意見等

第Ⅴ章 諏訪地域の高校の将来像について

旧第7通学区（諏訪地域）全体の高校の将来像としてまとめ、「想定される学校像のイメージ」を示した。

- 1 卓越した探究的な学びを実践し地域や世界の課題を考える都市部存立普通校
将来の子どもたちが自分の目標や将来の進路実現に向かい、新たな学びである「探究的な学び」による主体的な学びによって自己の可能性を広げることができ、多くの仲間たちと切磋琢磨できる規模の大きな学校の設置が求められる。また、国際化社会に対応可能な留学や国際交流を通じて国際感覚を養う学びの機会についてより一層取り入れることも考えられる。

地域に密着した学びやキャリア教育、自分だけの科目選択が特色の、普通科、専門学科に続く第3の学科の総合学科高校の設置も考えられる。

- 2 地域の産業界と連携し学びを深める都市部存立専門校

自分の目標や将来の進路実現に向かい、新たな学びである「探究的な学び」による主体的な学びによって自己の可能性を広げるとともに、専門性の学びを担保した専門学科は、将来の諏訪地域の産業界の担い手育成の重要な学びの場として設置していく必要がある。地域の精密機器分野をはじめとする伝統産業の継承はもとより、ICT分野等新たな時代に対応する学びが必要である。

これからの産業構造を考えると、専門性を担保しつつ、他の専門分野についても学ぶことができ学科間での連携が可能な一定規模の総合的な専門学科高校の設置を視野に入れた学びの場の構築が考えられる。

- 3 地域の学びの拠点としての中山間地存立校

将来の子どもたちが自分の目標や将来の進路実現に向かい、新たな学びである「探究的な学び」による主体的な学びによって自己の可能性を広げることができる地域の学びの拠点としての中山間地での学びの場の構築が今後必要である。

中山間地では小規模校のメリットを活かしたきめ細かい教育活動による多様なニーズへの対応が期待され、地域と連携し地域の魅力や特色を活かした学びが充実した普通科や専門学科、第3の学科の総合学科等の設置が考えられる。

(3) 再編・整備方針

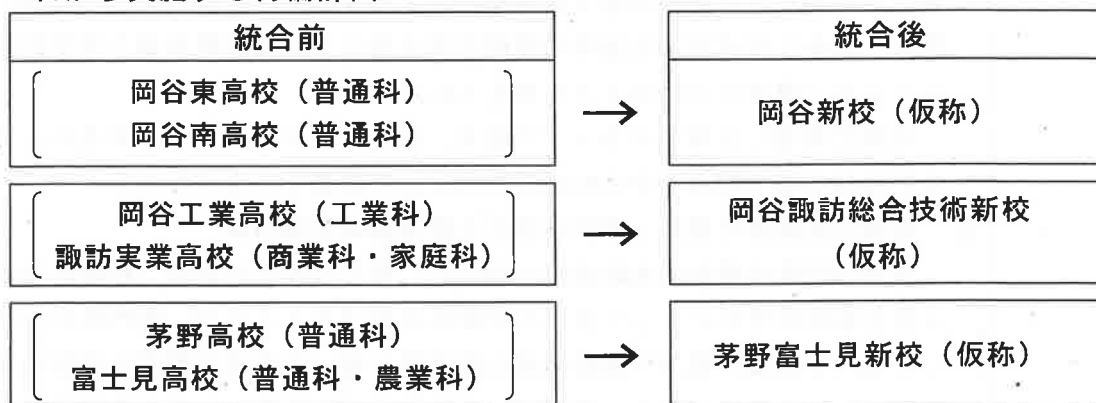
ア 今後の学びのあり方

- 隣接通学区への進学希望も考慮しつつ、地域の子どもを地域で育てる観点を大切にしながら、地域と連携して高校教育の充実を図るとともに、各校の特色を活かし、地域の中学生の期待に応える学びの実現をめざす。
- 各校で「3つの方針」に基づく新たな学びへの転換を推進する。
- 中山間地の高校においては、地域と連携し、各校の立地や地域の特色を活かした「探究的な学び」を充実させることにより、地域活性化につながる「新たな社会を創造する力」を育む教育活動を展開していくことが期待される。

イ 教育環境の整備

- 既に着手している事項も含め、引き続き教育環境の整備を進める。

ウ これから実施する再編計画



岡谷新校（仮称）の学校像としては例えば次のような姿が考えられる

【学 科】 普通科（単位制）

- 【特 長】 ・生徒の多様な進路希望や興味関心に応じた科目選択や入学年度を越えた学び合いなどを可能にする単位制を導入
- ・地域の特色あるスポーツや地域活動にも積極的に取り組むことができるカリキュラムの構築
 - ・実践的な英語力を共通のベースとして、地域の課題をグローバルな視点で探究するグローバルな学びを推進
 - ・留学生の積極的受け入れなどによる国際感覚を醸成
 - ・地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用

岡谷諏訪総合技術新校（仮称）の学校像としては例えば次のような姿が考えられる

【学 科】 工業科・商業科・家庭科・新学科（DX 等に対応するデジタル系学科）

- 【特 長】 ・学科の基礎的な専門性を身に付けるとともに、学科を横断した科目を学ぶことなどにより、これからの時代に必要な汎用的・多面的職業能力を育成
- ・デジタル系新学科を結節点として、工業・商業・家庭の学びを融合させ、地域社会や地域産業の新たな価値を生み出す産業人を育成
 - ・地域に根付いた精密機械産業や伝統産業に新たなイノベーションを興すことができる起業精神を育成
 - ・地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用

茅野富士見新校（仮称）の学校像としては例えば次のような姿が考えられる

【学 科】 普通科・農業科

- 【特 長】 ・豊富な地域資源を活用した実践的な探究活動により、「生きる力」と「地域を創る力」を育む地域デザイン高校
- ・年間を通じて、地元自治体や企業等において農業、観光、福祉、看護など地域に根差した産業について学ぶ新たな科目を設置
 - ・EdTech（テクノロジーを用いた学びの支援）を活用した、個々の学習状況に合った個別最適な学びなど、きめ細やかな支援が生徒一人ひとりに行き届く学校
 - ・八ヶ岳山麓地域唯一の県立高校として、幼保小中高が連携した一貫性のある学びを構築
 - ・地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用

茅野富士見新校（仮称）は、活用する校地・校舎や学校像などについて地域に様々な意見があることから、今後設置する「新校再編実施計画懇話会」の意見交換を踏まえ、魅力ある学校像を地域とともに創り上げていく。

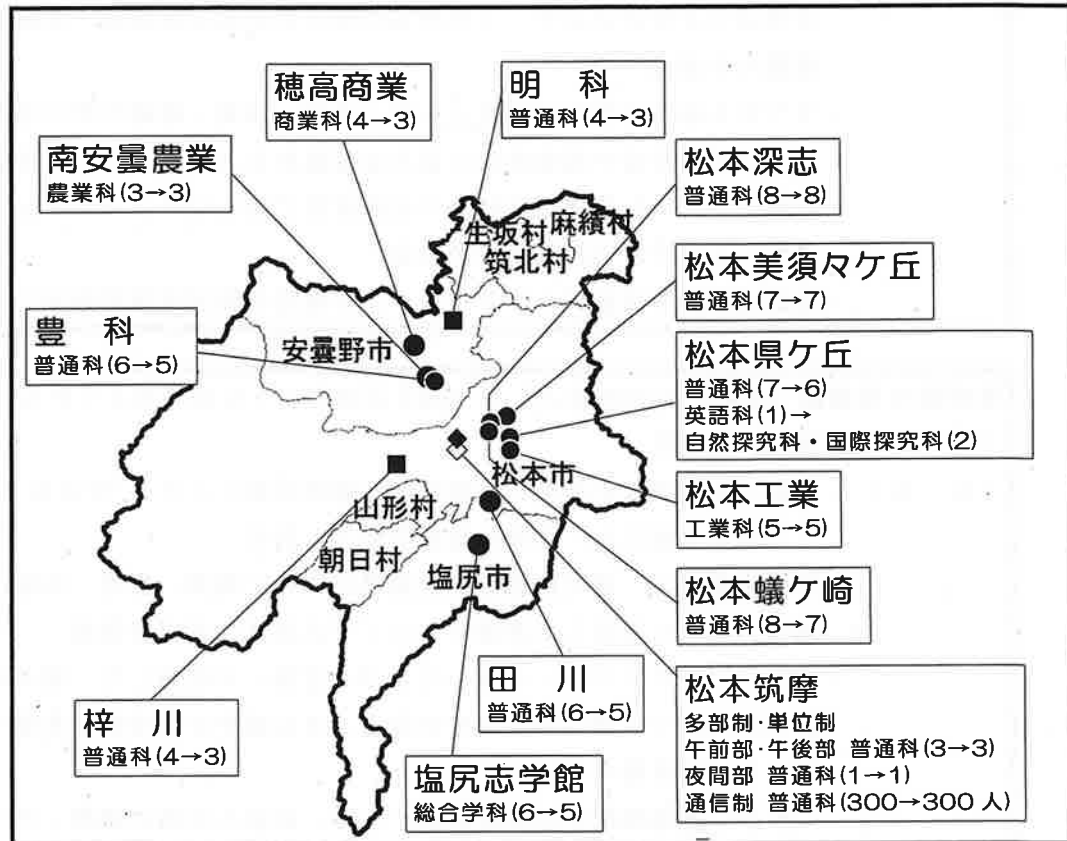
なお、旧第7通学区の高校進学者の区域外（県外を含む）への流出や八ヶ岳山麓地域を含む県境の高校のあり方などの課題については、県立高校のさらなる魅力化を図るための有識者を交えた懇談の場を設け、検討していく。

4 旧第11通学区

(1) 「実施方針」策定時の高校配置

ア「実施方針」において基準年としている2017年度の高校配置

カッコ内は募集学級数（2017年度→2022年度）



- ・全日制課程 ●都市部存立普通校 7校：塩尻志学館高校、田川高校、松本県ヶ丘高校、松本美須々ヶ丘高校、松本深志高校、松本蟻ヶ崎高校、豊科高校
- 都市部存立専門校 3校：松本工業高校、南安曇農業高校、穂高商業高校
- 中山間地存立校 2校：梓川高校、明科高校
- ◆多部制・単位制高校 1校：松本筑摩高校
- ・定時制課程 ◇ 1校：松本筑摩高校
- ・通信制課程

イ「実施方針」で示した再編計画の方向

- ・学校数が県内で最も多く、校種も多様である。また、私立高校も多い。これらを活かし、今後、少子化が進行する中で、地域の中学生の期待に応える学びの場を整備していく必要がある。
- ・この地区の今後の少子化の進行を考えると、再編の実施を前提に地域の高校の将来像を考えていく必要がある。
- ・専門学科の小規模化が想定される中で、専門教育の活力を維持充実させていく必要がある。
- ・これらの観点を踏まえると、通学区内の私立高校との関連も視野に入れつつ、松本市、塩尻市及び安曇野市に適正数を考慮しながら規模の大きさを活かした都市部存立普通校を配置するとともに、学びの場の保障の観点も踏まえながら中山間地存立校を配置していくことが考えられる。

- ・また、専門学科については、総合技術高校の設置等、活力ある専門教育の学びの場を配置していくために、旧第 12 通学区の専門高校の将来像の検討と併せて、広域的・多角的に検討していくことが考えられる。

(2) 地域での検討と地域からの意見・要望

ア 地域の「協議会」の概要

- ① 名 称 旧第 11 通学区高等学校教育懇話会
- ② 座 長 荒井 英治郎 信州大学教職支援センター准教授
- ③ 委 員 30 名
- ④ 活動期間 2019 年（令和元年）12 月～2021 年（令和 3 年）11 月
- ⑤ 要望提出 2021 年（令和 3 年）12 月 17 日

イ 「教育懇話会」からの意見・要望（抜粋）

「意見・要望書」旧第 11 通学区高等学校教育懇話会 より

① 学びのあり方に関わる意見等

4 意見・要望

(1) 高校の学びのあり方について

① 探究的な学びの推進について

- これからの時代に必要とされる新たな学びとしての「探究的な学び」を推進していくためには、地域や外部団体・機関と協働していくことが重要で、生徒同士の学び合い、他者と協働した学び、地域社会における体験を通した学び、ICT、多様な生徒に個別に最適化された学びを推進していくことが求められています。
- 新たな学びへの転換に伴い教師に期待される役割も変化し、生徒の学びを導くファシリテーター（促進者）、生徒の学びを支える伴走者として、新たな学びに対応する授業改善や教員の資質・能力向上のための研修をより一層充実させていくことが不可欠となります。
- 卓越性の伸長やアントレプレナーシップ（起業精神）の涵養、より高いレベルの教育、一方で、学歴社会への警鐘を鳴らす意見も出されました。また、即戦力となる専門性の高い人材の育成、地元の中小企業のビジネスパートナーが世界に広がる中ではリベラルアーツ（幅広い教養）が大切といった意見も出されました。

② 地域連携の推進について

- 実社会や実生活のリアルな体験・経験等によって興味・関心を一層高め、生徒自身がワクワクしながら主体的に学びを進めていくことが大切です。そのためには、高校と地域や外部団体・機関が連携することで、地域人材や地域資源を最大限活用できる環境を整備していくことが求められます
- これまで各高校が築いてきた外部団体・機関との連携をさらに充実させ、コンソーシアムや協議会を設けることで団体・機関間の横のつながりを強化し、幼・保・小・中など同じ地域のさまざまな教育機関等が協働するなど組織的な連携の仕組みを構築していくことが必要となります。また、社会に開かれた教

育課程やカリキュラム・マネジメントの観点から、コミュニティ・スクールを積極的に導入していくことも検討すべきだという意見も出されました。

さらに、初等、中等、高等教育機関が連携を深めていく取組、コーディネーターや外部人材の登用も、予算措置など負担軽減の仕組みを並行して構築していくことが必要です。

③ 普通科の学びの充実について

- 中学校での聞き取り調査などから、中学生や保護者にとっては県立の普通科高校の特色がわかりにくい、高校の選択が輪切りによって決められるという意識が強いことが明らかとなりました。今後、高校の学習内容や学習方法等に目を向けた進路選択が行われるよう特色ある学びを展開し、各校の魅力を積極的に発信していくことが急務となっています。
- 普通科以外に「学際領域に関する学科」「地域社会に関する学科」など、特色・魅力ある学科の設置も積極的に検討し、各校の学びの内容・方法の特色化などを通じて、中学生や保護者、地域の多様な思いや期待に応える高校づくりを進めていくことが重要です。

④ 専門学科の学びの充実について

- 専門高校は実践的・経験的な学びを実現することで地域づくりの拠点としても位置づいており、地域と地域産業を支える重要な存在となっています。
- 専門高校と普通高校が連携した「探究的な学び」の実践や、地域の小中学校と連携したキャリア教育などを通して、生徒の職業選択や希望あふれる将来につなげられるよう、専門教育が最先端技術や最新情報を含めた学習内容や学習方法に常にアップデートしていくことが不可欠となります。

⑤ 特別支援教育の充実について

- 県立高校の合理的配慮を必要とする生徒の増加に伴い、特別支援学校高等部や分教室、通級指導教室などの整備とともに、専門知識を有する人的配置等の拡充を要望します。
- また、多様な背景を持つ生徒（身体障がい、知的障がい、学習障がい、不登校、セクシャルマイノリティ、日本語が母国語でない等）の切れ目のない支援を一層充実させていくことを求めます。
- さらに、県と地域が早急に情報共有を行い、小中学校と高校をつなぐコーディネーターの配置など、協働して実現していくことを要望します。

⑦ その他

- 県立高校は、子どもたちの学習機会を保障し学力を向上させ、全人的な発達・成長を促し、社会に出る前段階としてのモラル・マナーをはじめ、人権感覚や主権者意識を養っていくことも重要です。
- 県立高校は数多くの魅力的な探究学習の取組や魅力ある行事が必ずしも中学生や保護者に十分に伝わっていないという意見もあり、生徒自身が中学生にその学校の特色ある学びや各種教育活動の魅力を伝える機会を設けるなど、情報発信についても、一層の工夫が求められます。
- また、部活動を自己実現のための活動と位置付けて高校を選択する生徒もいるため、今後の高校の部活動のあり方について、地域の社会・教育活動、生涯学習など多様な観点から地域が一体となって検討していく必要があります。

② 環境整備に関わる意見等

4 意見・要望

(1) 高校の学びのあり方について

⑥ 施設・設備の充実について

- 生徒に対するアンケート調査等からトイレの改修や専門高校の設備更新について切実で強い要望があり、学習施設・設備の一層の充実が望まれます。
- また、GIGA スクール構想における一人一台端末で学んだ小中学生が今後高校に進学していくことを踏まえて ICT 環境の整備をさらに積極的に進め、ICT に関わる教職員の研修を充実させ、一人も取り残されることのない学びを保障していくことを強く要望します。

③ 高校配置に関わる意見等

(2) 高校の配置のあり方について

① 基本的な考え方

- 今後予想される社会の急激な変化や少子化の影響を考慮した場合、県立高校の都市部存立校の普通校、専門校のいずれにおいても何らかの形での再編は避けることができない状況にあると考えます。
- 現在、本地区に設置されている普通科、専門科（農業、工業、商業）、特色学科、総合学科、多部制・単位制（定時制）、通信制の学びは引き続き維持・充実させていく必要があります。
- 今後は、都市部存立校と中山間地存立校の役割分担と適正な配置がより一層重要となります。都市部存立校には、規模の大きさを活かして生徒同士が切磋琢磨できる環境の整備が、また、中山間地存立校には、特色ある学びの場を創造し、地域との協働的な学びが実現できる環境の整備が期待されています。なお、中山間地存立校には小規模という特色を活かして、例えば、人間関係にストレスを感じる生徒が少人数で学ぶことができるような機能を明確に持たせたらどうかという意見もありました。
- 旧第 11 通学区には私立高校が多いという特色があり、私立高校を第一志望とする生徒が徐々に多くなり、県立の後期試験を受験する生徒が少なくなっている状況にあります。

公立高校と私立高校の関係に関しては、両者の連携や協調を維持すべきである、という意見が大勢を占めましたが、より競争的な環境に置かれるべきとする意見も出されました。

② 都市部存立普通校のあり方について

- 松本市以外（塩尻市及び安曇野市）の都市部存立普通校は、全ての学校において令和 3 年度の募集定員が望ましいとされている 240 人より少なく、今後予想されるさらなる小規模化に伴って十分な教員配置ができないなどの不具合や特別活動の活力の低下などが危惧されます。本地区においては、松本市を含め、塩尻市、安曇野市の 3 市においては適正規模の都市部存立普通校を設置していくことが望ましいと考えます。
- 高校再編により高校がなくなる地域は過疎化の進行が加速するという意見も出され、そのような状況を回避するために、将来的には、松本市の普通校も含めてすべての都市部存立普通校の再編を検討していくべきであるという意

見も出されました。

③ 都市部存立専門校のあり方について

- 松本工業高校は、地域産業が求める人材の育成、最先端の知識や技術の習得などの必要性を踏まえた小学科の構成や教育課程の見直しなど、新しい時代に生きる高校生や産業界から期待される工業教育を積極的に展開していくことが求められています。
- 南安曇農業高校と穂高商業高校が地域にとって欠かすことのできない高校であることが改めて認識されました。一方で、今後の少子化の進展に伴って専門教育の機能や魅力の低下、生徒会活動や部活動等を含む教育活動の活力の低下が危惧されています。

両校については、旧第12通学区の地域協議会「大北地域における高等学校の将来を考える協議会」と合同で「安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会」を設置し、3校（南安曇農業高校、穂高商業高校、池田工業高校）の再編を想定した総合技術高校の設置について「本地区における今後の少子化の状況や社会の変化に対応した専門教育の維持・充実を図るためには、総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備のあり方を議論していくべきであるという趣旨の意見が大勢を占めた。」という報告を真摯に受け止める必要があることが確認されました。

他方で、改めて本懇話会で議論すべきであるという意見も出されました。

なお、総合技術高校については地元の理解が十分進んでおらず決定は時期尚早という意見や両校の単独存続を求める声、また、両校を何とか存続させる方法、例えば、少人数学級を導入して存続という意見も出されました。

地域から高校がなくなると地域の活力や活気が失われるという切実な思いは十分に理解でき傾聴に値する一方、小規模化が進んで2学級募集が続くと再編の基準に該当、専門校としての機能を維持していくことが困難であり、単独存続だけが専門教育の維持・充実のための方法とは言えないという意見が出されました。また、単独存続は、長野県の未来の高校生にとって良いことか、真に地域のためにならないのではないかという意見も示されました。

また、高校入学後に学びながら学科を決めるような柔軟なシステムも魅力的であるという意見も出されました。

県教育委員会は、これらの重要な意見にも十分配慮しながら、専門高校の配置のあり方を様々な観点で検討した上で結論を出されるよう強く望みます。

④ 中山間地存立校のあり方について

- 梓川高校と明科高校の2校の中山間地存立校は、地域に根差し、地域と共に歩む高校であることが改めて明らかになりました。
- 両校とも、地域課題の解決を目指す「探究活動」や「信州学」等を通じて更に地域に密着した学習活動を展開するとともに、中山間地存立校として引き続き魅力化を進めながら存続させていくことを要望します。

(3) その他

- 中学生の夢や希望を叶えるためには、様々な高校を選択できる環境があることが大切であり、各校の特色を明確にし、各校の学びが進路選択や資格取得にどのように結びつくのかを具体的にイメージできるような取組を進めていくことが必要です。

また、いわゆる偏差値に基づく高校選択から学びの内容を重視した高校選択に転換していくよう、中学校と連携しながら検討していくことが求められます。

- そのためには、豊かな学びを通じて、「自ら考え、判断し、行動できる力」を高め、夢や希望を育む幼保小中高の連続したキャリア教育の一層の充実を図ることが必要です。
- この他、これまでの教育システムにとらわれないレベルで、世界のトップや最先端と繋がり、全国から長野県の高校で学びたいと思われるような特色のある高校づくりが必要で、長野県が教育予算にどう向き合うか県の姿勢を見せてもらいたいという意見も出されました。
- また、保護者による送迎等の負担、通学費の負担の問題への対応も求められています。
- なお、今後の少子化の進行は深刻で、一刻も早く県立高校の再編を進めるべきという強い意見があった一方で、拙速な結論を出すべきでないという慎重論、また、県民世論を盛り上げ、公私の枠を越えて長野県全体の高校教育のあり方を引き続き議論すべきであるという意見もありました。県教育委員会には、多様な意見に対して丁寧に対応していただくようお願いいたします。

(3) 再編・整備方針

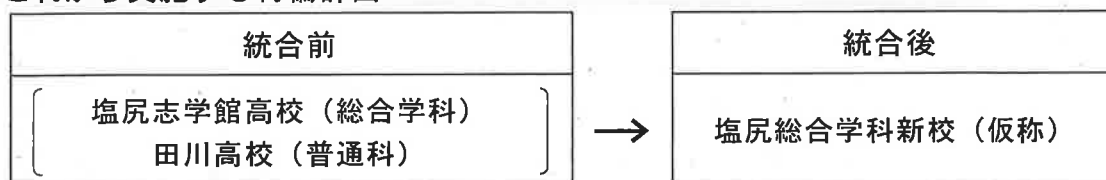
ア 今後の学びのあり方

- 地域における普通教育と専門教育の充実を図るとともに、特色学科、総合学科、多部制・単位制（定時制）、通信制について、各校の特色を活かした地域の中学生の期待に応える学びの実現をめざす。
- 各校で「3つの方針」に基づく新たな学びへの転換を推進する。
- 都市部の高校においては、規模を活かした学校づくりをとおして、生徒たちが切磋琢磨しながら「新たな社会を創造する力」を育むことのできる教育活動を創造していくことが期待される。
- 中山間地の高校においては、地域と連携し、各校の立地や地域の特色を活かした「探究的な学び」を充実させることにより、地域活性化につながる「新たな社会を創造する力」を育む教育活動を展開していくことが期待される。

イ 教育環境の整備

- 既に着手している事項も含め、引き続き教育環境の整備を進める。

ウ これから実施する再編計画



〔 南安曇農業高校（農業科） 旧第 11 通学区
 穂高商業高校（商業科） 旧第 11 通学区
 池田工業高校（工業科） 旧第 12 通学区 〕



安曇野総合技術新校（仮称）

塩尻総合学科新校（仮称）の学校像としては例えば次のような姿が考えられる

【学 科】 総合学科（単位制）

- 【特 長】 ・希望進路や興味関心に基づいて、普通科目や職業科目、現代の諸課題に対応する学校設定科目などの中から自分だけの時間割を主体的に創りながら自らのキャリアを構想する、キャリアデザイン高校
- ・県総合教育センターと連携し、総合学科高校をはじめとする県内の高校にオンライン授業を配信するセンター的な機能を備えた高校
 - ・単位制のメリットを活かし、他校や大学の授業や学校外の学修などを単位認定
 - ・塩尻市内唯一の県立高校として、両校の地域連携を継承する共学共創プラットフォームを構築し、地域資源を最大限活用する探究活動を実践

安曇野総合技術新校（仮称）の学校像としては例えば次のような姿が考えられる

【学 科】 農業科・工業科・商業科

- 【特 長】 ・学科の基礎的な専門性を身に付けるとともに、学科を横断した科目を学ぶことなどにより、これからの時代に必要な汎用的・多面的職業能力を育成
- ・「総合選択制（他学科の科目を選択したり、他学科に転科することが可能なシステム）」を導入し、生徒一人ひとりの進路希望や興味関心に応じた学びを実現
 - ・DX 等に対応するデジタル系の学びを共通の核として、Society5.0 に必要なイノベーションを起こすことができる産業人の育成
 - ・地元自治体や地域の企業等との共学共創プラットフォームを構築し、再編対象校が培ってきたノウハウや各地域の資源を最大限活用した探究活動や課題研究を実践

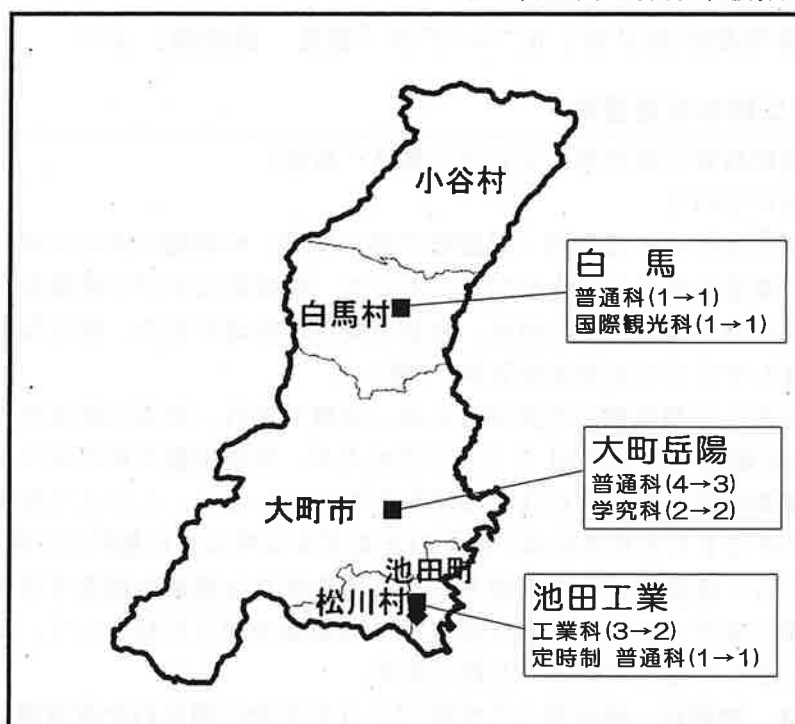
安曇野総合技術新校（仮称）は、旧第 11 通学区と第 12 通学区を跨ぐ統合であることから、両通学区の既存校を含めた生徒募集定員に十分留意しつつ、活用する校地・校舎などについて、今後設置する「新校再編実施計画懇話会」の意見交換を踏まえ、魅力ある学校像を地域とともに創り上げていく。

5 旧第12通学区

(1) 「実施方針」策定時の高校配置

ア「実施方針」において基準年としている2017年度の高校配置

カッコ内は募集学級数（2017年度→2022年度）



- ・全日制課程 ■ 中山間地存立校 3校：池田工業高校、大町岳陽高校、白馬高校
・定時制課程 ◆ 夜間定時制 1校：池田工業高校

イ「実施方針」で示した再編計画の方向

- ・隣接通学区への進学希望にも応えつつ、地域の子どもを地域で育てる観点も大切にしながら、地域の中学生の期待に応える学びの場を整備していく必要がある。
- ・この地区の今後の急激な少子化の進行を考えると、学校規模の縮小化を見据えた地域全体の高校の将来像について検討を進め、地域の合意形成を図っていく必要がある。
- ・これまでに、学究科・国際観光科等の特色ある学びの場を整備しており、普通科とともにこれらの充実を図っていく必要がある。
- ・また、専門学科については、総合技術高校の設置等、活力ある専門教育の学びの場を配置していくために、旧第11通学区の専門高校の将来像の検討と併せて、広域的・多角的に検討していくことが考えられる。

(2) 地域での検討と地域からの意見・提案

ア 地域の「協議会」の概要

- ① 名 称 大北地域における高等学校の将来を考える協議会
- ② 会 長 牛越 徹 大町市長
- ③ 委 員 26 名

- ④ 活動期間 2019 年（令和元年）9 月～2021 年（令和 3 年）12 月
⑤ 意見提出 2022 年（令和 4 年）1 月 5 日

イ 「協議会」からの意見・提案（抜粋）

「大北地域の高等学校のあり方」についての「意見・提案書」より

① 学びのあり方に関わる意見等

3 大北地域の高校教育のあり方について（意見・提案）

(1) 学びのあり方について

学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては「探究的な学び」を一層進めることが大切です。そして、探究的な学びの実践から「学力の 3 要素」をバランスよく身に付け、社会の変化に対応する力、新たな社会を創造する力を育んでいくことが大切です。（略）

本来、子どもたちの興味関心の拡がりには、分野や学科、科目の壁はありません。今後、今ある職業の多くが AI にとって代わられ、気候変動や新たなウイルスへの脅威など難問が私たちの前に立ちはだかることでしょう。このような変化の激しい時代を生きる子どもたちには、多くのさまざまな考え方に触れて、実体験・実経験する中から、多面的に物事を捉えられる力や新たな価値を創造する力を養って欲しいと願います。そして願わくば、将来は地域を担う人材として、地域で活躍し、地域とともに生きて欲しいと思います。

そのためには、地域が一体となった学校づくりや社会に開かれた教育課程の観点からも生徒、教職員、保護者、同窓会、教育機関、企業・団体などが協働した学び合いや地域に根差した学びを実現しなければなりません。

また、多様な背景を持つ子どもたちや、あらゆる支援が必要な生徒の増加への対応も重要な課題の一つです。子どもたちの誰一人として取り残されない高校の学びを実現していただくようお願いします。

② 環境整備に関わる意見等

(1) 学びのあり方について

社会や経済の状況が目まぐるしく変化し、それに伴って高校を取り巻く環境も大きく変化しました。新型コロナウイルス感染症の影響もあって学校では Wi-fi 環境や BYOD への取組が進み、様々な ICT 機器を活用した学びが活発に行われるようになりました。今後も進歩が速い ICT の分野で取り残される生徒が出ないよう、なお一層の環境整備をお願いします。

③ 高校配置に関わる意見等

(2) 各高校の今後のあり方について

① 池田工業高校

地元企業の協力を得て実施する池工版デュアルシステム、池田町が設置したコーディネータによる企業と高校が連携した人材育成など、先駆的で野心的な数々の取組により大きな成果をあげてきました。しかし、少子化の進展に伴い、近年の入学生は募集定員を大きく割る状況が続いています。来年度（令和 4 年度）募集学級数が 3 から 2 に減じられることが明らかとなり、「実施方針」に記されている「再編の基準」への該当が現実のものとなっています。

池田工業高校の特徴は、工業の専門高校として、卒業生の 64%が県内企業に就職し、さらに卒業生の 40%が大北地域や安曇野地域の企業へ就職している点（過去 10 年間の実績より）であり、これまでに多くの産業人を輩出してきました。特に大北地域・安曇野地域の地域産業の将来を考えたときに、地域産業をこれまで支えてきた専門高校の大きな役割や存在意義、また今後少子化の中であっても、産業界との連携の必要性は変わりません。ついては、県教育委員会は、高校の統廃合のみの視点からではなく、専門高校の特徴をいかに継続し、将来の地域産業につなげるかも併せて考え、合同部会の報告とともに総合的な視点で高校改革を丁寧に進めてください。

② 大町岳陽高校

統合して 6 年目となった今年度、ビジョン委員会において魅力づくりの議論が活発になり、「普通科、学究科のビジョンを明確にし、魅力ある学校づくりを推進することが重要である。」との自己評価もあります。

今後の少子化の影響は甚大と思われますが、大北地域を背負っていく高校として「卓越性の伸張」と「多様な進路への対応」の両面において成果が発揮できるよう十分な教員配置をお願いするとともに、さらなる特色化を進めることにより、引き続きスケールメリットを活かした学びが実現できるようにしてください。

③ 白馬高校

白馬・小谷地域における「学びの保障」という重要な前提を踏まえるとともに、地元自治体のこれまでの非常に大きな支援を無駄にしないためにも、再編の基準をそのまま適用することなく存続できるようにし、最終的には「中山間地存立特定校」として心配なく存続できるように、早急な検討をお願いします。

また、国際観光科の全国募集については、寮を設置している白馬村、小谷村に大きな負担があることは事実です。今後も両村との十分な意見交換のもと、制度の柔軟な見直しを含め意見交換を続けていただくよう要望します。

(3) 再編・整備方針

ア 今後の学びのあり方

- 地域に根差した学び、各校の特色を活かした地域の中学生の期待に応える学びの実現をめざす。
- 各校で「3つの方針」に基づく新たな学びへの転換を推進する。
- 地域と連携し、各校の立地や地域の特色を活かした「探究的な学び」を充実させることにより、地域活性化につながる「新たな社会を創造する力」を育む教育活動を展開していくことが期待される。

イ 教育環境の整備

- 既に着手している事項も含め、引き続き教育環境の整備を進める。

ウ これから実施する再編計画

24 ページを参照

第4 定時制・通信制課程の配置

定時制・通信制課程は、勤労青少年に高校での学びを保障するという従来の役割に加え、学び直しの場合、進学や就職など将来の進路を見据えての学びの場合、さらに積極的に自己実現を図る場合として重要な役割を担うようになってきている。

これらの多様な学びを保障するために、定時制・通信制課程においても全日制課程と同様に「新たな学びの場」を創造しながら、配置を考える必要がある。

1 「実施方針」で示した方向

- ・多部制・単位制高校は、現在、第2通学区（東信地区）、第3通学区（南信地区）、第4通学区（中信地区）に各1校配置されているが、今後、第1通学区（北信地区）への配置を検討する。あわせて、各地区における定時制の適正配置についても検討していく。
- ・通信制高校は、現在の東北信と中南信への配置を基本に据え、さらなる通信制教育の充実・発展を図るために、サテライト校の配置等も含めて検討する。
- ・現在、第1通学区（北信地区）と第4通学区（中信地区）に各1校配置されている通信制高校について、地理的に離れたところに住む生徒のためにサテライト校を導入するなど、通信制教育の充実・拡大を図る。

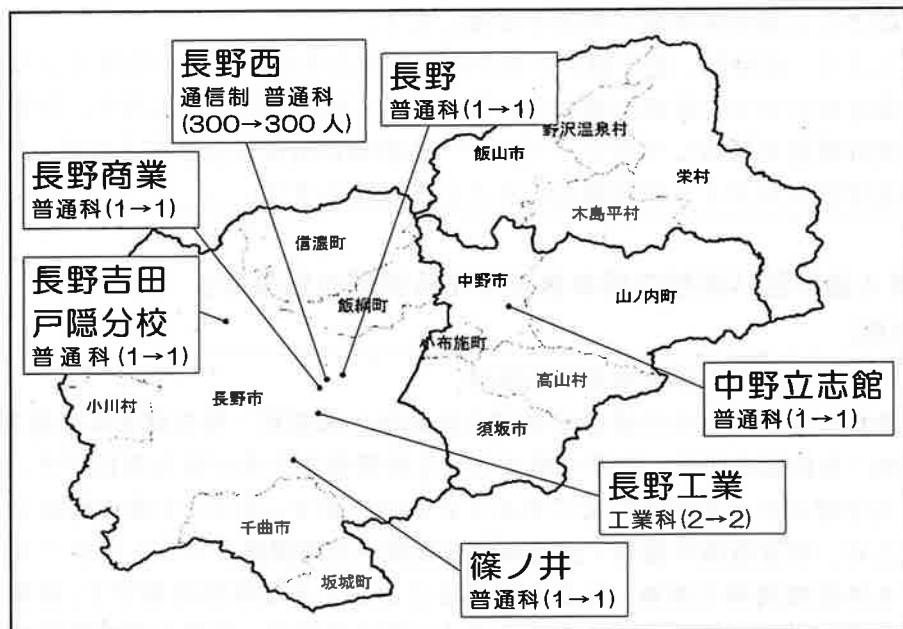
2 学びや配置の考え方

- ・多様な背景を持つ生徒が、自らの学習や生活スタイルに合わせて主体的に学び方を選択できる柔軟な仕組みを整備するとともに、教育環境の整備を進める。
- ・各校で「3つの方針」に基づく新たな学びへの転換を推進する。
- ・通信制については、EdTechを活用した個別最適な学びや地域連携による探究的な学びなど、新たな通信制の学びに取り組んでいる「長野西高校望月サテライト校」の取組の成果を全県に展開するとともに、新たなサテライト校の設置についても検討を進める。

3 第1通学区（北信地区）

(1) 「実施方針」策定時の配置

カッコ内は募集学級数（2017年度→2022年度）



(2) 「協議会」からの意見・提案（抜粋）

ア 旧第2通学区の高校の将来像を考える協議会

従来、勤労青年の高等学校教育を受ける機会を保障する場であった定時制は、近年、学び直しの機会の創出や、多様な背景を持つ生徒が学ぶ場となっています。いつでも学べる柔軟な仕組みを整備し、幅広い学びの場として充実して行く必要があります。

多部制・単位制、通信制高校を含め、学校になじめない子どもも社会とつながり、就労へとつながる学びの場の設置についても検討する必要があります。

イ 旧第3通学区「地域の高校の将来像を考える地域の協議会」

（一部再掲）

第IV章 地域の高校の将来像

4 定時制・通信制の学び

かつて定時制高校は、勤労青年が中等教育を受ける機会を保障する場として、大変重要な役割を担っていましたが、近年は、多様な背景を持つ生徒が学ぶ場として、あるいは学び直しができる場としてその重要性は高まっています。また、遠方から通学する生徒や、過去のいじめや不登校経験を克服し自分に合ったスタイルでの学習を模索する生徒、海外の学校を卒業し日本での自立した生活を目指す生徒、アルバイトを経験しながら自分のライフスタイルに合わせた学び方を模索する生徒など、多様な生徒が在籍しています。

同様に、通信制課程も多様な背景を持つ生徒の学ぶ場として注目され、在籍生徒が増加しています。こうした多様な生徒の要望に応える学びの場として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、通級制による指導などの充実も含めた定時制の学びとして、北信地域には未設置である午前部・午後部・夜間部を備えた多部制・単位制高校の設置を要望します。

それに加えて、遠隔授業や EdTech の活用、希望する日に生徒が登校して地域と連携して取り組む探究的な活動、大学等での単位や各種資格の取得、コンクールの成果等を卒業要件として認定する学修奨励等、生徒の個性に合わせた柔軟な学びのシステムを可能とする通信制課程の併設を要望します。

それにより、定時制、通信制いずれかに所属した生徒が、自らのライフスタイルや進路希望に合わせて主体的に選択し、じっくり4年間かけて学んだり、3年未満で卒業に必要な単位を修得してギャップイヤーを有効に活用したりするなど、よりフレキシブルな学びのスタイルが可能となることを期待します。

ウ 旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」

(一部再掲)

第三章 子どもたちの夢を実現する学び

(5) 多様な生徒のための多様な学びの必要性和多部制・単位制高校の設置

多部制・単位制高校は、授業を受けられる時間帯を生徒が自ら選択でき、生徒自身の生活や学習スタイルに合わせて学ぶことができます。また、生徒の幅広いニーズに応えるため、学習指導や相談・支援体制の充実、人間関係やコミュニケーション能力育成等を外部機関等と連携しながら進めることができる学びの場です。多様な生徒に対して多様な学びの場を求める観点から、旧第2通学区、旧第3通学区の協議会から北信地域への設置要望が出されました。

旧第4通学区の協議会でも多部制・単位制高校設置の要望は強く、北信地域全体の高校生の交通の利便性等にも配慮しながら、速やかに多部制・単位制高校を設置することを望みます。設置場所については、交通の便の良い旧第4通学区への設置を強く求める意見もありました。

また、合わせて多様な生徒の多様な学びを保障する観点から、夜間定時制の適正な配置についても要望いたします。

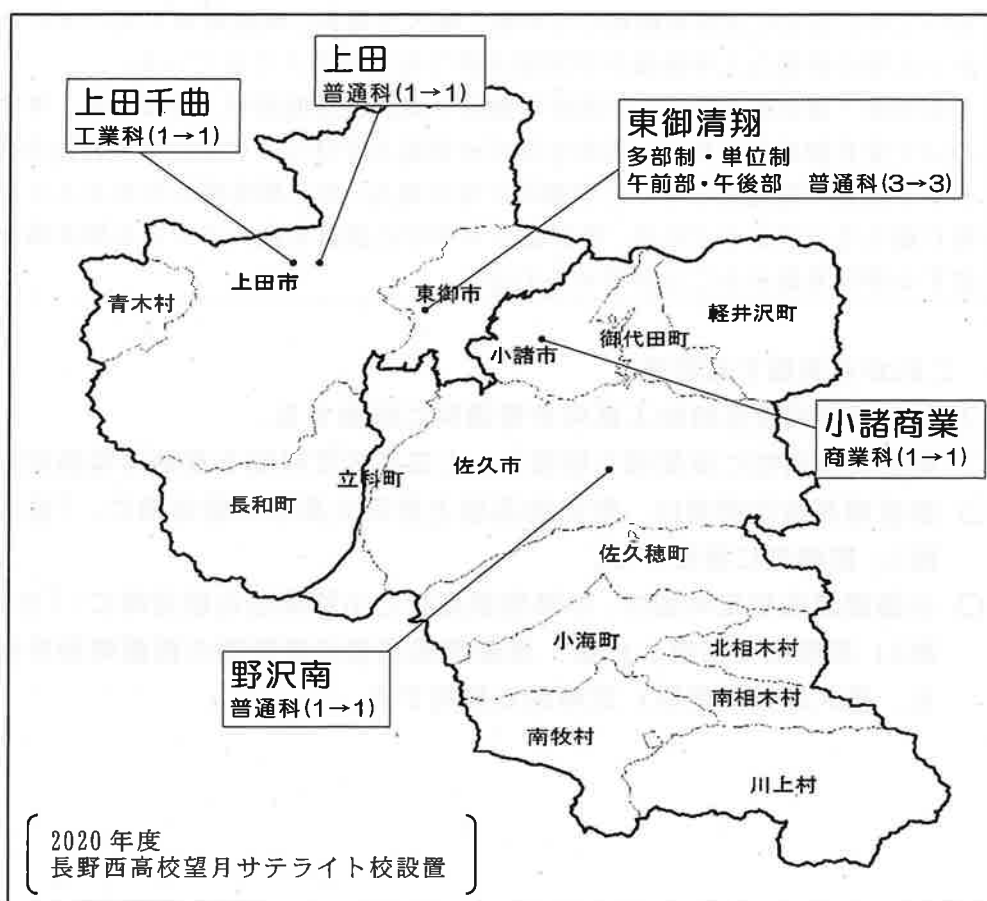
(3) これから実施する計画

- 中野立志館高校定時制は、中野立志館高校と中野西高校の統合時に、「中野総合学科新校（仮称）」定時制に移管する。
- 長野東高校を定時制（多部制・単位制）に転換して長野吉田高校戸隠分校、長野高校定時制、長野商業高校定時制を集約するとともに、長野西高校通信制を移管した「長野東スーパーフレックス新校（仮称）」を設置する。
(学校像は8ページを参照)
- 長野工業高校定時制工業科を普通科に転換する。

4 第2通学区（東信地区）

(1) 「実施方針」策定時の配置

カッコ内は募集学級数（2017年度→2022年度）



(2) 「協議会」からの意見・提案（抜粋）

ア 上田地域の高校の将来像を考える協議会

定時制高校（多部制・単位制高校）は、全日制高校に比べ、柔軟な学びの仕組みを持ち、近年は多様な入学動機や学習歴を持つ生徒にとって重要な学びの場となっている。旧第5通学区では、「第1期長野県高等学校再編計画」において、地元の生徒をはじめ、広い地域から通学する様々なニーズを持った生徒の学びの期待に応えるため、東御清翔高校が全日制高校から多部制・単位制高校に転換している。この地域の定時制教育のあり方については、社会情勢の変化や地域からの要望等を酌み、中長期的な視点で検討していただきたい。

通信制は、「自分の好きな時間に学習ができる」など、生徒のニーズや生活リズムに対応する仕組みを持つため近年需要が高まる傾向にある。一方で卒業後の進路について「進路未決定者が4割程度」（「長野県学校基本調査」による）であることについて、キャリア教育や子どもたちへの学習支援体制の整備を求める意見が協議会において出された。

イ 佐久地域の高校の将来像を考える地域の協議会

定時制・通信制高校は、中学校を卒業して勤務に従事する等様々な理由で全日制高校に進めない青少年に対して高校教育を受ける機会を与えるものであったが、近年においては、さらに全日制課程からの転・編入や過去に高校教育を受けることができなかった等の多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増えてきている。

定時制・通信制高校は、定通併修制度や実務代替制度等、教育課程、単位認定等において全日制高校に比べ、柔軟な学びの仕組みを持っている。その特性を活かし、キャリア教育や探究的な学びに積極的に取り組み、自ら興味関心のあることに積極的に取り組もうとする子どもや、学び直しや学びに困難を抱える子ども等多様な生徒に対応する学びを進めることが求められる。

(3) これから実施する計画

- 上田千曲高校定時制工業科を普通科に転換する。
- 東御清翔高校に夜間部を設置し、上田高校定時制を東御清翔高校に集約する。
- 野沢南高校定時制は、野沢南高校と野沢北高校の統合時に、「佐久新校（仮称）」定時制に移管する。
- 小諸商業高校定時制は、小諸商業高校と小諸高校の統合時に、「小諸新校（仮称）」定時制に移管した後、東御清翔高校の夜間部の設置時期を考慮しながら、佐久新校（仮称）定時制に集約する。

5 第3通学区（南信地区）

(1) 「実施方針」策定時の配置

カッコ内は募集学級数（2017年度→2022年度）



(2) 「協議会」からの意見・提案（抜粋）

ア 諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

多様な生徒のニーズに対応できる定時制課程は引き続き設置することが必要と考える。さらに昨今進学者が増えている通信制課程の設置についても将来的に検討していく必要があると考える。

＜想定される定時制及び通信制課程のイメージ＞

- 多様な生活スタイルや学習ニーズに対応する夜間定時制課程
- 卒業後の進路について、進学、就職いずれの分野への進路実現が可能な進路指導体制が充実した学びの場
- キャリア教育や地域との連携により自己の将来への可能性や幅広い人間関係構築を目指した学びの場
- いつでもどこでも学べる個別最適化の学びが用意された新しいタイプの学びの場

第Ⅴ章 諏訪地域の高校の将来像について

4 多様なニーズに応える定時制及び通信制課程

多様な生徒のニーズに対応できる定時制課程は引き続き設置することが必要と考える。さらに昨今進学者が増えている通信制課程の設置についても将来的に検討していく必要があると考える。

イ 上伊那地域の高校の将来像を考える協議会

多部制・単位制高校及び定時制高校は、多様な学びの場の確保や学び直しの機会創出のため、現状のとりの配置を維持するとともに、いつでも学べる仕組みを導入して、より幅広い生徒の学習ニーズに応えられる学びの場としていくことが望ましい。

ウ 南信州地域の高校の将来像を考える協議会

○多部制・単位制の機能を持つ学びの場の検討

旧第9通学区では、現在飯田OIDE長姫高校に夜間定時制が設置され、多様な学習歴や生活歴等の様々な背景を持つ生徒の学びの場として重要な役割を果たしているが、生徒のニーズにさらに応えていくため、より幅広い時間帯での履修が可能となる多部制・単位制の機能を持つ学びの場についての検討が課題と考えられる。

○通信制課程設置の検討

多様な生徒の柔軟な学びの場として、昨今通信制課程が注目されている。旧第9通学区では、飯田女子高校に狭域通信制が設置され一定の成果を挙げているが、公立高校としての通信制課程は未設置であるため、今後、より柔軟な学びの場として通信制課程の拡充についての検討が必要であると考えられる。

○多様な生徒の生活・学習スタイルに応えるため多部制・単位制の機能を補完する仕組みを備えた新たな夜間定時制課程の設置

＜夜間定時制課程に多部制・単位制の機能を補完することの必要性＞

- ・多部制や単位制といった仕組みがあれば、今まで全日制と夜間定時制しかなかった選択肢がさらに広がるため、生徒の幅広いニーズに応えることができ、現状のシステムではうまく高校に通えない生徒たちの門戸も広がる。
- ・通常4年間で卒業となる夜間定時制に多部制・単位制の機能を補完することにより、全日制と同様に3年間で卒業することが可能となる。
- ・単位制の導入で、今まで取得した単位が無駄にならず生徒の学習意欲にもつながる。
- ・地域との連携を重視した学校設定教科・科目の開講が期待でき、就業体験及びキャリア教育を通じて社会人として必要な職業観や勤労観の醸成が期待できる。

＜具体的な取組み内容＞

- ・新たな多部制・単位制高校を設置することや、現在設置されている高校を多部制・単位制に転換していくことは現実的には困難であり、既存の夜間定時制を活かしながら、そこに多部制・単位制の機能を補完していく方向性が妥当と考える。
- ・現在設置されている飯田OIDE長姫高校の夜間定時制を活用し、多部制・単位制の要素を取り込んだ柔軟な学びのシステムを構築することが望ましい。
- ・多部制・単位制の機能の補完に当たっては、必要となる施設、教職員の適正配置等、運営に支障がないよう十分な配慮が必要である。

○多様な生徒の生活・学習スタイルに応える高校について

- ・将来の子供たちが知識や技能だけでなく、思考力・判断力・表現力あるいは自ら主体的に学ぶ探究的な学び等を、この地域のどの学校でも享受できるような環境を維

持していくことが必要である。

- ・不登校対策も含め、様々な理由から全日制には通えない生徒たちの受け皿を特定の学科に収斂させるのではなく、高校全体あるいは地域全体で支える視点を持って検討していく必要がある。
- ・夜間定時制、多部制・単位制高校等に加え、公立通信制の設置についても検討を進める必要があると考える。

(3) これから実施する計画

- 諏訪実業高校定時制は、諏訪実業高校と岡谷工業高校の統合時に、「岡谷諏訪総合技術新校（仮称）」定時制に移管する。
- 赤穂高校定時制は、「赤穂総合学科新校（仮称）」開校時に、新校定時制に移管する。

6 第4通学区（中信地区）

(1) 「実施方針」策定時の配置

カッコ内は募集学級数（2017年度→2022年度）



(2) 「協議会」からの意見・提案（抜粋）

ア 木曽地域の高校の将来像を考える協議会

2 木曽地域の高校の将来像 に向けた意見・提案

(2) 木曽地域の魅力ある「高校の姿」について

- ⑥ 学校環境整備に生徒が主体的に関われることを考えたい。このことは、探究的な学びの実践の場ともなる。

また、ICT 機器、Wi-Fi 環境のより一層の充実が望まれる。このことが、障がい等がある生徒への支援や定時制の学びの充実のためにも活用されることが大切である。

- ⑨ 定時制については、現在も様々なニーズの生徒に対応し多くの成果を上げていることから、存続していくことが望ましい。

イ 旧第 11 通学区高等学校教育懇話会

(2) 高校の配置のあり方について

①基本的な考え方

- 本地区に設置されている普通科、専門科（農業、工業、商業）、特色学科、総合学科、多部制・単位制（定時制）、通信制の学びは引き続き維持・充実させていく必要があります。

⑤ 定時制・通信制のあり方について

- 定時制・通信制については、働きながら学ぶ生徒数は近年減少し、全日制課程からの進路変更者や不登校経験者、過去に高校教育を受ける機会がなかった方など、多様な方々が学ぶ場としてのニーズが増しています。また、困難を抱える生徒の自立支援等の面においても、その役割が一層期待されています。
- 中学卒業生の通信制への進学は公立私立ともに大きく増加しており、中南信地区で唯一の多部制・単位制（定時制）、通信制を併設する松本筑摩高校の重要性が改めて認識されました。

- 高校教育においては、生徒の特性に合わせた手厚い指導や学び直しの場も今後必要となるとされており、オンラインを活用した他校併修の拡充、医療機関を始めとした外部機関との連携、個別支援に対応できる相談体制や職員体制の拡充の必要性が確認されました。県立高校においては、これらの役割を担う松本筑摩高校のさらなる充実を要望します。

ウ 大北地域における高等学校の将来を考える協議会

3 大北地域の高校教育のあり方について（意見・提案）

(2) 学びのあり方について

- ④ 定時制 池田工業高校定時制は本地区唯一の定時制として、様々な背景によって全日制高校に通うことのできない生徒の学びを保障するという観点から、小さな規模ながらも非常に重要な役割を果たしてきました。今後も、地区内の定時制の学びを維持していただくようお願いします。

(3) これから実施する計画

- 旧第 12 通学区内の定時制の配置のあり方については、「安曇野総合技術新校（仮称）」の校地等と併せて検討する。

第2章 再編・整備の進め方

基本的な考え方を以下に示す。

1 全体の再編手順

「再編・整備計画【三次】(案)」については、県民への説明と周知を図り、県議会等での議論を経て「再編・整備計画【三次】」を確定する。確定後は、統合新校ごとの個別の再編実施計画を策定し、準備が整ったところから具体的な再編・整備に着手していく。また、再編されない既存校や集約されない定時制・通信制課程についても、順次整備等を進めるものとする。

2 個別の再編実施計画の策定

統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたって県教育委員会は、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域とともに検討を行う。

(1) 「新校再編実施計画懇話会」の開催による検討

統合新校の開校に向けては、地域と協働して進めていくことが必要であることから、県教育委員会は「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催して検討を進める。懇話会は県教育委員会が主宰し、全体会議又は特定の事項に係る会議を開催することもある。

ア 会議構成

懇話会は地域の実情に応じて開催するものとし、例えば、次のような者で構成することが考えられる。

- 県教育委員会 ○ 学校関係者(校長、教職員等)
- 地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)
- 同窓会、PTA、生徒の代表

イ 検討事項

懇話会は、以下の事項について意見交換を行う。また、県教育委員会は懇話会の意見交換を踏まえ、統合新校の設置に向けた必要事項を検討していく。

- 目指す学校像 ○ 設置課程・学科 ○ 募集学級数
- 募集開始年度 ○ 活用する校地・校舎 ○ 学校教育目標
- 教育課程 ○ 施設・設備 ○ 校名 ○ 校歌・校章 など

ウ 地域への情報公開と説明

懇話会の全体会議は原則公開とするとともに、県教育委員会は統合新校の設置に関する検討状況について地域への丁寧な説明に努める。

(2) 「再編実施基本計画」の決定

県教育委員会は懇話会における意見交換を踏まえ、学びのイメージ、募集開始年度、活用する校地・校舎、設置課程・学科及び想定する募集学級数等について「再編実施基本計画」を決定し、それに基づき県議会に対し統合への同意を求めることとする。

(3) 統合新校の開校準備

ア 具体的な準備

県議会の統合への同意後、県教育委員会は校舎の建設・施設整備等、開校に向けた具体的な準備を進める。

また、懇話会を開催し、高等学校設置条例の改正に必要な統合新校の校名のほか、統合の方法等細部にわたる具体的な事項について意見交換を行い、再編実施計画を策定し、開校準備を行う。

イ 県民への広報と周知

開校準備の進捗状況については、適時、適切に広報するとともに、特に、生徒募集に係る具体的事項については、中学生や保護者、中学校関係者等に遅滞なく周知するように努める。

資 料

- 1 「都市部存立校」と「中山間地存立校」について
- 2 再編に関する基準等について
- 3 旧 12 通学区別中学校卒業予定者数の予測 (2017 年～2030 年)
- 4 2022 年度 (令和 4 年度) 公立高等学校の学級数及び在籍生徒数
- 5 2022 年度 (令和 4 年度) 公立高等学校の配置図 (全日制課程)
- 6 2022 年度 (令和 4 年度) 公立高等学校の配置図 (定時制課程、通信制課程)
- 7 「再編・整備計画【一次】」の概要
- 8 「再編・整備計画【二次】」の概要

1 「都市部存立校」と「中山間地存立校」について

2022 年（令和 4 年）5 月 1 日現在

通学区	旧 12 通学区	都市部存立校		中山間地存立校
		都市部存立普通校	都市部存立専門校	
1	1			飯 山 下高井農林
	2	中野立志館 中野西 須坂東 須 坂	須坂創成	
	3	長野吉田 長 野 長野西 長野東	長野商業 長野工業	北 部
	4	長野南 篠ノ井 屋代南 屋代南	更級農業 松 代	坂 城
2	5	上 田 上田染谷丘 上田東	上田千曲	丸子修学館
	6	小 諸 岩村田 野沢北 野沢南	小諸商業 佐久平総合技術	蓼 科 軽井沢 小 海
3	7	諏訪清陵 諏訪二葉 下諏訪向陽 岡谷東 岡谷南	諏訪実業 岡谷工業	富士見 茅 野
	8	伊那北生ヶ丘 伊那弥生ヶ丘 赤 穂	上伊那農業 駒ヶ根工業	辰 野 高 遠
	9	飯 田 飯田風越	飯田 OIDE 長姫 下伊那農業	松 川 阿 智 阿 南
4	10			蘇 南 木曾青峰
	11	塩尻志学館 田 川 松本県ヶ丘 松本美須々ヶ丘 松本深志ヶ崎 松本蟻科 豊 科	松本工業 南安農 穂高商業	梓 川 明 科
	12			池田工業 大町岳陽 白 馬

注) 「都市部存立校」と「中山間地存立校」の考え方は、全日制高等学校を対象としており、多部制・単位制及び定時制高等学校は含まれていない。

2 再編に関する基準等について

1 「都市部存立普通校」の基準について

- 募集定員 240 人以上が望ましく、さらに規模の大きさを活かせる募集定員 320 人規模の学校の設置も目指す。
- 規模が縮小し、在籍生徒数が 520 人以下の状態が 2 年連続した場合には、再編対象として、①他校との統合（新たな高校をつくる）、②募集停止のいずれかの方策をとる。

2 「都市部存立専門校」の基準について

- 募集定員 120 人以上が望ましい。
- 規模が縮小し、在籍生徒数が 280 人以下の状態が 2 年連続した場合には、再編対象として、①他校との統合（新たな高校をつくる）、②募集停止のいずれかの方策をとる。

3 「中山間地存立校」の基準について

- 募集定員 120 人以上が望ましい。
- 在籍生徒数が 120 人以下の状態、もしくは、在籍生徒数が 160 人以下かつ卒業生の半数以上が当該高校へ入学している中学校がない状態が 2 年連続した場合には、再編対象として、①他校との統合（新たな高校をつくる）、②地域キャンパス化（分校化）、③「中山間地存立特定校」の指定、④募集停止のいずれかの方策をとる。

4 「中山間地存立特定校」の基準について

- 地域との協働を「中山間地存立校」を適用した学校よりもさらに強化することにより、募集定員 40 人でも単独で高校を存続させる道を探る。
- 次の条件をすべて満たす高校は「中山間地存立校」の基準に該当した場合であっても、その例外として「中山間地存立特定校」としての指定を検討する。
 - (ア) 県境に近い地域で、近隣の高校と著しく離れている。
 - (イ) 教育機会の確保の観点から高校の存続の必要性が高いと判断できる。
 - (ウ) 所在する市町村等、地域からの支援を得ながら、高校を単独で存続する体制を整備できる。

5 「地域キャンパス」及び「中山間地存立特定校」がより小規模になった場合について

- 在籍生徒数が 60 人以下の状態が 2 年連続した場合には、募集停止を検討する。ただし、卒業生の半数以上が当該高校へ入学している中学校がある場合や、将来、入学者の増加が予測される場合は慎重に扱う。なお、在籍生徒数は、地域キャンパス化から 3 年が経過、もしくは「中山間地存立特定校」の指定から 3 年が経過した時点以降の生徒数とする。

注 1) 再編に関する基準等については、令和 5 年度を初年度として適用する。

注 2) この基準の「在籍生徒数」は、学校基本調査に基づく 5 月 1 日現在の数とする。

3 旧12通学区別中学校卒業予定者数の予測 (2017年～2030年)

各年3月の卒業予定者数 (単位：人)

中学校 卒業年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2017年と 2030年と の増減 (B)-(A)	2017年に 対する 2030年の 比率 (B)/(A)
	H29 (A)	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12 (B)		
1区	320	265	255	265	250	256	230	233	169	219	216	187	198	200	-120	63%
2区	1,290	1,188	1,165	1,059	1,031	1,084	1,087	1,034	1,050	1,017	1,020	973	984	962	-328	75%
3区	2,686	2,754	2,582	2,567	2,378	2,459	2,460	2,414	2,284	2,336	2,179	2,131	2,017	2,040	-646	76%
4区	1,990	1,962	1,986	1,883	1,841	1,875	1,837	1,818	1,703	1,683	1,758	1,651	1,582	1,679	-311	84%
5区	1,938	1,829	1,799	1,826	1,742	1,711	1,708	1,669	1,618	1,662	1,652	1,609	1,566	1,573	-365	81%
6区	2,047	1,966	1,949	1,874	1,799	1,887	1,823	1,800	1,767	1,830	1,723	1,705	1,776	1,667	-380	81%
7区	1,912	1,940	1,773	1,770	1,771	1,788	1,702	1,736	1,630	1,598	1,585	1,563	1,532	1,478	-434	77%
8区	1,856	1,816	1,823	1,728	1,704	1,764	1,731	1,642	1,729	1,579	1,623	1,521	1,535	1,553	-303	84%
9区	1,715	1,606	1,555	1,560	1,480	1,465	1,530	1,434	1,394	1,451	1,403	1,360	1,341	1,256	-459	73%
10区	210	214	203	213	207	190	185	167	195	181	170	156	161	150	-60	71%
11区	4,226	4,139	4,007	3,854	3,911	3,911	3,895	3,875	3,656	3,664	3,611	3,523	3,493	3,545	-681	84%
12区	564	560	533	479	448	440	459	435	423	412	436	382	368	410	-154	73%
県全体	20,754	20,239	19,630	19,078	18,562	18,830	18,647	18,257	17,618	17,632	17,376	16,761	16,553	16,513	-4,241	80%

(注1) 2017年～2021年については、それぞれ前年度の学校基本調査による数。

(注2) 2022年～2030年は、2021年度学校基本調査による数。

(注3) 3区と4区は独自推計による。

(注4) 松本秀峰中等教育学校(前期課程：11区)、県立屋代附属中(中1～中3：4区)、同誠訪清陵附属中(中1～中3：7区)、市立長野中(中1～中3：3区)の生徒数を含む。

4 2022 年度(令和 4 年度) 公立高等学校の学級数及び在籍生徒数

旧通 学区	学校名	学級数			在籍 生徒数
		1 年	2 年	3 年	
1 区	飯山	5	5	5	571
	下高井農林	2	2	2	148
2 区	中野立志館	5	5	5	547
	中野西	5	4	5	538
	須坂創成	7	7	7	820
	須坂東	4	4	4	384
	須坂	6	6	6	716
3 区	北部	2	2	2	195
	長野吉田	6	6	7	754
	長野	7	7	7	837
	長野西	6	6	6	716
	長野商業	5	5	6	626
	長野東	5	4	5	560
	長野工業	6	6	6	709
	長野西中条校	1	1	1	59
	篠ノ井犀峽校	1	1	1	28
	長野市立長野	4	4	4	472
4 区	長野南	5	4	5	553
	篠ノ井	6	6	6	716
	更級農業	4	4	4	447
	松代	4	4	4	354
	屋代	7	7	7	835
	屋代南	3	3	3	314
5 区	坂城	2	2	2	190
	上田千曲	6	6	7	740
	上田	8	8	8	952
	上田染谷丘	7	7	7	854
	上田東	7	7	7	823
	丸子修学館	6	6	6	682
6 区	東御清翔※	3	3	3	334
	蓼科	2	2	2	201
	小諸商業	4	4	4	411
	小諸	5	5	5	479
	軽井沢	2	2	3	224
	佐久平総合技術	7	7	7	757
	岩村田	5	5	5	588
	野沢北	5	5	5	590
	野沢南	5	5	5	576
	小海	2	2	3	157

旧通 学区	学校名	学級数			在籍 生徒数
		1 年	2 年	3 年	
7 区	富士見	2	2	2	222
	茅野	2	2	2	214
	諏訪実業	4	4	4	410
	諏訪清陵	6	6	6	698
	諏訪二葉	6	6	6	719
	下諏訪向陽	5	5	5	525
	岡谷東	3	3	3	356
	岡谷南	5	5	5	597
	岡谷工業	5	5	5	540
	辰野	3	3	3	318
8 区	箕輪進修※	3	3	3	290
	上伊那農業	4	4	4	458
	高遠	3	3	3	307
	伊那北	6	6	6	710
	伊那弥生ヶ丘	6	5	5	639
	赤穂	5	5	5	591
	駒ヶ根工業	3	3	3	341
	松川	3	3	3	334
9 区	飯田	6	6	6	722
	飯田風越	5	5	6	637
	飯田 OIDE 長姫	7	7	7	799
	下伊那農業	4	4	4	452
	阿智	2	2	3	259
	阿南	2	2	2	161
10 区	蘇南	2	2	2	149
	木曽青峰	4	4	4	369
11 区	塩尻志学館	5	5	5	592
	田川	5	5	5	526
	梓川	3	3	3	321
	松本工業	5	5	5	554
	松本県ヶ丘	8	8	8	967
	松本美須々ヶ丘	7	7	7	833
	松本深志	8	8	7	917
	松本蟻ヶ崎	7	7	7	840
	松本筑摩※	3	3	3	328
	明科	3	3	3	232
	豊科	5	5	5	567
	南安曇農業	3	3	3	350
12 区	穂高商業	3	3	3	331
	池田工業	2	3	3	218
	大町岳陽	5	5	5	591
	白馬	2	2	2	140

※2022 年(令和 4 年) 5 月 1 日現在

※多部制・単位制の学級数は、3 年までの午前部と午後部のみを掲載。また、在籍生徒数は、午前部・午後部の全生徒数を掲載

＜定時制課程(多部制・単位制の夜間部を含む)を設置している高校＞

第 1 通学区：中野立志館・長野吉田・長野・長野商業・長野工業・篠ノ井

第 2 通学区：上田千曲・上田・小諸商業・野沢南

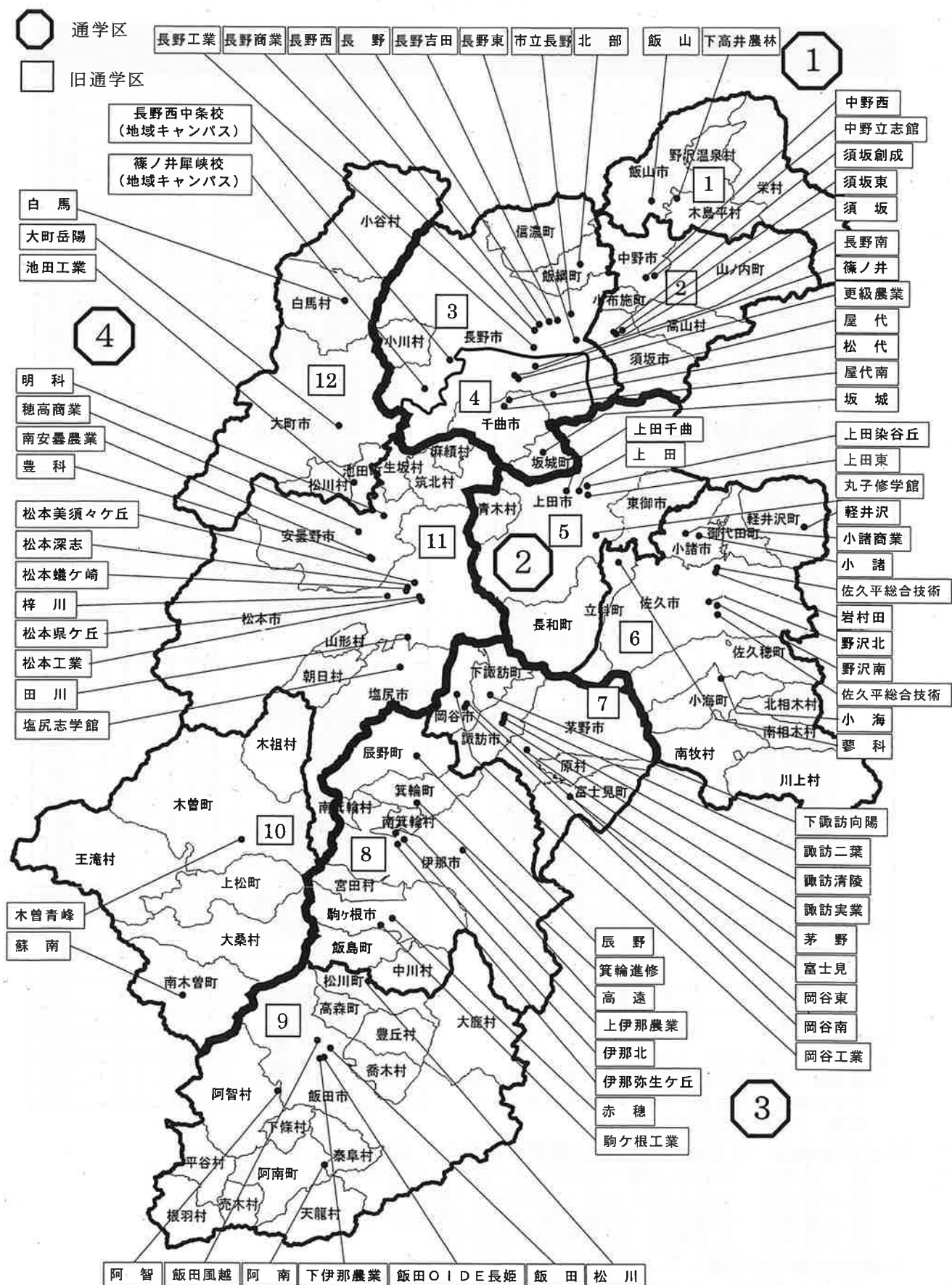
第 3 通学区：諏訪実業・箕輪進修・赤穂・飯田 OIDE 長姫

第 4 通学区：木曽青峰・松本筑摩・池田工業

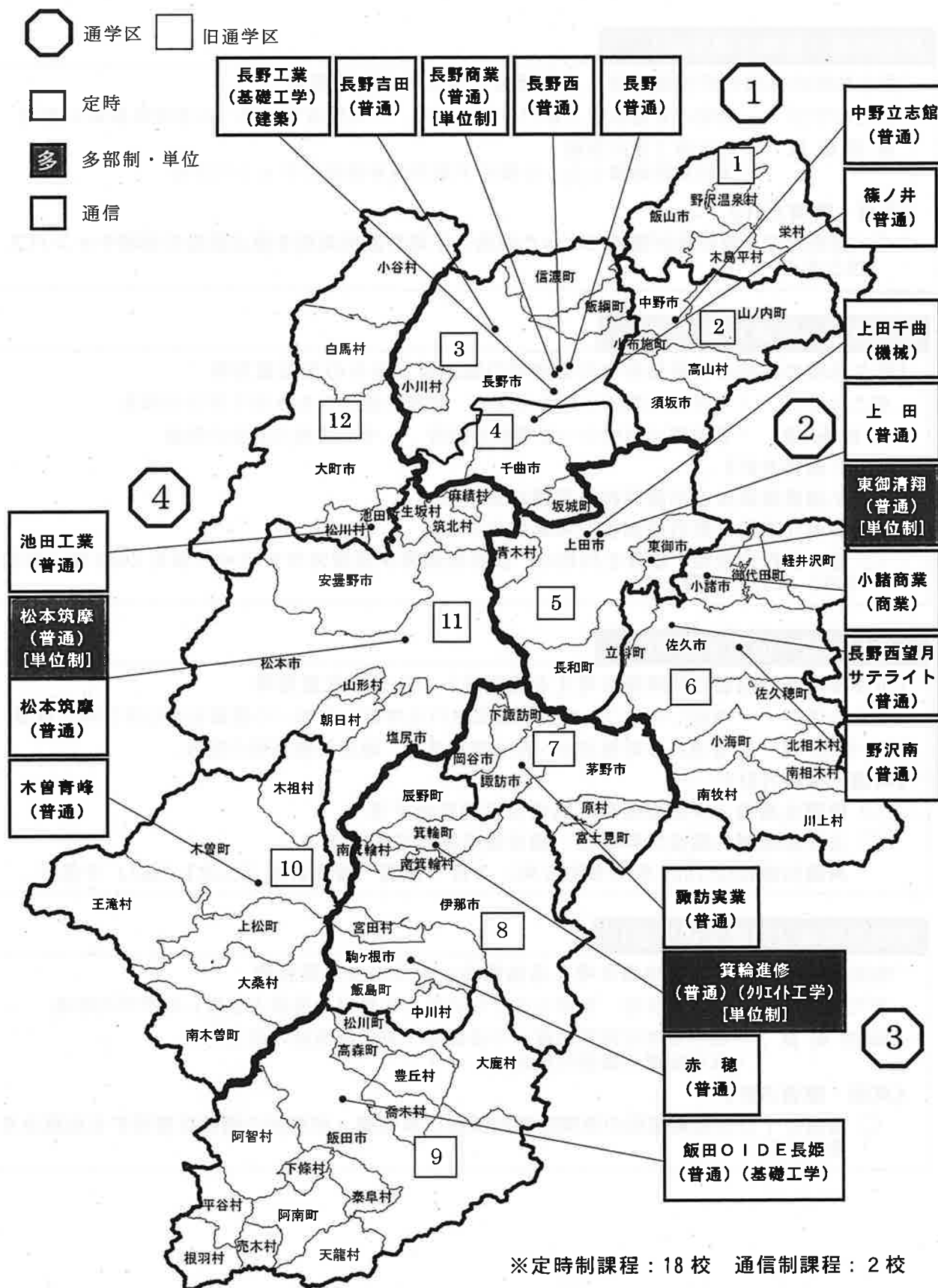
＜通信制課程を設置している高校＞

第 1・2 通学区：長野西 第 3・4 通学区：松本筑摩

5 2022 年度(令和4年度) 公立高等学校の配置図 (全日制課程)



6 2022 年度(令和4年度) 公立高等学校の配置図 (定時制課程、通信制課程)



※定時制課程：18校 通信制課程：2校

※多部制・単位制課程：3校

7 「再編・整備計画【一次】」の概要

岳北地域（旧第1通学区）

「岳北地域の高校の将来像を考える協議会」からの主な意見等

- 新たな学び ・地域の普通教育と専門教育の充実 ・専門教育の場への専攻科設置の検討
高校配置 ・地区内2校の存続
・2校存続困難となった際の下高井農林高校のキャンパス化

《再編・整備方針》

- 将来的に2校存続が困難になった場合、下高井農林高校を飯山高校の地域キャンパス校とする

佐久地域（旧第6通学区）

「佐久地域の高校の将来像を考える地域の協議会」からの主な意見等

- 新たな学び ・中学生の期待に応える学び、地域の活力を生み出す学びの推進
高校配置 ・都市部の高校の一定規模の維持 ・中山間地の高校の存続

《再編・整備方針》

- 小諸商業高校と小諸高校を再編統合する
- 野沢北高校と野沢南高校を再編統合する
- 望月高校の校地・校舎を利用し、長野西高等学校望月サテライト校を2020年（令和2年）4月に設置した

上伊那地域（旧第8通学区）

「上伊那地域の高校の将来像を考える協議会」からの主な意見等

- 新たな学び ・卓越した学び、個別最適化された学び、地域への愛着を育む学び等の推進
高校配置 ・普通科教育拠点校、総合学科高校、総合技術高校の設置

《再編・整備方針》

- 伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校を再編統合する
 - 上伊那地域に総合学科高校・総合技術高校を設置する
- 再編対象校は2021年（令和3年）3月「再編・整備計画【二次】（案）」で示す

南信州地域（旧第9通学区）

「南信州地域の高校の将来像を考える協議会」からの主な意見等

- 新たな学び ・多様な生活・学習スタイルに応える学び、地域と連携した学びの推進
高校配置 ・既存夜間定時制課程への多部制・単位制機能の付加
・高校配置の継続的検討

《再編・整備方針》

- 飯田O I D E長姫高校の夜間定時制課程に多部制・単位制の機能を補完する仕組みを構築する

8 「再編・整備計画【二次】」の概要

1 中野・須坂地域（旧第2通学区）

「旧第2通学区の高校の将来像を考える協議会」からの主な意見等

- 新たな学び ・先進的な教育の場の充実、魅力的なカリキュラムの構築、地域教育資源の活用推進
- 高校配置 ・都市部存立普通校の規模の確保
・総合学科高校の一層の充実、総合技術高校プラス普通科高校の設置

《再編・整備方針》

- 中野立志館高校と中野西高校を再編統合する
- 須坂東高校と須坂創成高校を再編統合する

2 上田地域（旧第5通学区）

「上田地域の高校の将来像を考える協議会」からの主な意見等

- 新たな学び ・キャリア教育や社会に繋げる教育活動の推進、地域と連携した学びの推進
- 高校配置 ・現状の高校配置を維持、定時制（多部制・単位制）教育のあり方を中長期的な視点で検討

《再編・整備方針》

- 当面の間、現状の高校配置を維持する

3 上伊那地域（旧第8通学区）

「上伊那地域の高校の将来像を考える協議会」からの主な意見等

- 新たな学び ・個性が尊重される多様な学び、地域資源を活かした学び、地域への愛着を育む学びの推進
- 高校配置 ・普通科教育拠点校、総合学科高校、総合技術高校の設置

《再編・整備方針》

- 辰野高校の商業科、箕輪進修高校の工業科、上伊那農業高校、駒ヶ根工業高校の再編統合による総合技術高校を設置する
- 赤穂高校を総合学科高校に転換する

4 木曽地域（旧第10通学区）

「木曽地域の高校の将来像を考える協議会」からの主な意見等

- 新たな学び ・地域の核となる高校教育の充実、個別最適化した学びの推進
- 高校配置 ・地区内2校の存続、生徒のニーズに応じた柔軟な学科編成を検討

《再編・整備方針》

- 当面の間、学びの保障の観点から現状の高校配置を維持する

- 「再編・整備計画【一次】・【二次】」の詳細については、下記URLをご覧ください。
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/koko/gakko/saihen/joho/manabinokaikaku.html>

— 確かな暮らしが営まれる美しい信州 —

学びと自治の力で拓く新時代

しあわせ信州創造プラン 2.0 (長野県総合 5 か年計画) 推進中

幼保・小・中・高の一貫した

「学びの改革」

を推進

長野県教育委員会

【お問い合わせ】

長野県教育委員会事務局 高校教育課 高校再編推進室

郵便番号 〒380-8570

住所 長野県長野市大字南長野字幅下 692-2

電話 026 - 232 - 0111 (代表) 内線 4347

026 - 235 - 7452 (直通)

FAX 026 - 235 - 7488

E-mail koko-kaikaku@pref.nagano.lg.jp

県の方針

- ◆部活動改革を通じて、子どもたちがより良いスポーツ・文化芸術に親しめる環境を構築
- ◆教員の負担を軽減し教員の働き方改革を推進し、学校教育の充実を図る

【部活動の主な課題】

活動形態

- 学校単位の活動が困難
- 部活動数の減少等



生徒・保護者

- やりたい種目ができない
- 専門性の高い指導が受けられない
- 保護者の負担(費用・送迎)



学校教員

- 勤務時間外の指導(休日・大会引率等)
- 経験のない競技を指導(約6割)



【目指す活動の状態】

【生徒】

平日・休日ともに地域クラブで活動

【教員】

学校部活動は、平日のみで対応できる範囲の活動

【生徒】

子どものニーズに応じた活動が行われている

- ・競技志向(専門的な活動)
- ・気軽に楽しむための活動
- ・体験を目的とした活動等

【教員】

休日の部活動指導は行わない

まずは、休日の部活動について、令和5年度からの改革推進期間(3年間)で移行を推進(令和7年度に評価・分析)

活動形態

- 地域のクラブ活動による活動の拡大(地域の活性化)

生徒・保護者

- 希望する種目ができる
- 複数種目や分野など様々な活動が可能
- 経験に基づく専門性の高い指導が受けられる

学校教員

- 時間外勤務の削減
- 働き方改革の推進

論点

◆地域の実情が違う中で、地域間格差を生じない活動の場をどのように構築するか

課題の整理

現 状		課 題
①活動の受皿	○総合型スポーツクラブ (68クラブ) スポーツ少年団 (514単位団) 県スポーツ協会登録競技団体 (41団体)	○多様な実施主体の協力が必要 ○受け皿のない場合、新規立ち上げが必要
②活動種目	○運動部1,597部 文化部287部 中体連競技数19 (夏16、冬3) (中学校数185校)	○ニーズに応じた多様な活動の選択肢が必要 ○種目によっては、地域でできないものもある
③指導者の確保	○JSPO公認スポーツ指導者(約3,000人) ○部活動指導員 (約200人) ○教員の兼職兼業希望者 (約550人/約4,300人中) 計約3,750人	○競技別・地域別に指導者数にばらつきがある ○マッチングや人材の掘り起こしが必要 ○特に文化部 (吹奏楽・合唱) の指導者の確保が困難
④費用負担	○年間8,000円程度※モデル検証での試算 (指導者謝金・移動費・保険料等) ※学校徴収金(R1)3,785円/年(部活動・行事)	○過度な負担とならない費用負担の設定 ○補助金等の支援も検討 (経済的困窮家庭の支援は別途検討)

協議会の設置

県連絡協議会を設置し課題を共有し論点について協議 (第1回 2月開催予定)
(スポーツ・文化芸術関係団体、教育関係団体、市町村関係者、県関係課等)

市町村によって状況が異なる中、子どもの活動の場をどのように確保していくのが、市町村との役割分担の考え方を協議・整理しながら、体制構築をすすめる。

	市町村からの要望	想定される県としての対応
①活動の受皿	○過疎地の小規模校では単独での受け皿がない ○地域（文化）活動の実施主体が無くどのように設置すべきか困惑している	○複数の町村での地域クラブの立ち上げ事例の紹介 ○運営団体ごとの立ち上げのパターンの紹介
②活動形態	○これまでの部活動（種目・形態等）をそのまま地域に移行することは難しい	○多様な活動を保障する指導者を確保するため、指導者データベースシステムを活用
③指導者の確保	○小さな町村では、指導者がみつからない ○指導者研修の開催と指導者資格の認定 ○先生方の協力が必須	○他市町村と連携した広域での環境整備を支援 ○スポーツ団体等への依頼、企業や大学と連携した人材の開拓 ○指導者研修会の開催と動画コンテンツの作成 ○兼職兼業がしやすい環境整備
④費用負担	○新たに発生する指導者報酬や移動経費等に対する財政支援希望 ○保護者から費用を徴収しないような国や県からの財政支援が必要	○原則は受益者負担だが、費用負担のあり方を今後検討（独自財源の確保策や自走できる仕組みの検討） ○困窮家庭への支援は別途要検討 ○国への財政支援の要望

県内の実践研究

○現在4団体（長野市・飯島町・麻績村・南佐久）が地域移行の実証研究を実施

南佐久6地域の事例（佐久穂町・川上村・南牧村・小海町・南相木村・北相木村） R4.11～試行開始

運営主体の 形態・性質	複数の市町村教育委員会で設立 (任意団体設立型)
クラブ	6町村で協議会を設立し、負担金を 拠出し運営資金を確保 単独で活動困難な4運動部から試行 (卓球・バスケット・男バレー・サッカー)
指導者	指導者数8名 ○地域指導者3名 ○教員5名(兼職兼業)
生徒の移動 手段	徒歩・バス・鉄道・保護者送迎
課題	○多項目に対応する指導者の確保 ○広域による参加者の移動負担 ○組織を安定して持続するための 財源確保や負担金の在り方等

